

## 第 5 回アフリカ開発会議公式サイドイベント シンポジウム「女性の活躍と経済成長」について

### 1 シンポジウム概要

- (1) 日 時 平成 25 年 5 月 31 日 (金) 13:30~16:30
- (2) 場 所 パシフィコ横浜 アネックスホール
- (3) 主 催 横浜市、外務省、経済産業省、国際協力機構 (JICA)
- (4) 後 援 内閣府
- (5) 協 力 国連女性機関 (UN Women) 日本国内委員会
- (6) 参加者 女性の社会進出に興味のある市民など約 500 名
- (7) 内 容
  - 【あいさつ】 林文子市長  
阿部俊子外務大臣政務官  
堂道 (どうみち) 秀明 J I C A 副理事長  
アーサリン・カズン WFP (国連世界食糧計画) 事務局長
  - 【記念講演】 ジョイス・バンダ マラウイ共和国大統領
  - 【パネルディスカッション】
    - ① オディレ・ガチレ・カテセ (ルワンダ初のアイスクリームショップ経営)
    - ② ミツラル・キフレユスス・マチ (エチオピアの農産物加工製品企業経営)
    - ③ ジネット・ウスレ・ヨーマン (アフリカ開発銀行ジェンダー担当)
    - ④ 林文子 市長
    - ⑤ 田中由美子 J I C A 国際協力専門員 (コーディネーター)

### 2 シンポジウムの成果

- (1) 出席者アンケートにも、女性が活躍する明るい躍動的なアフリカが印象づけられたとの声が多く寄せられ、参加した市民にアフリカを身近に感じてもらうことができた。
- (2) アフリカ開発会議テーマ別会合※で林市長から報告を行い、次回以降も国際会議の場における女性の主流化に貢献することができたとともに、経済における女性の活躍推進に力を入れている都市としての横浜市のアピールにつながった。
- (3) J I C A が行うアフリカの女性起業家の支援のための研修プログラムに横浜市も協力し、アフリカの女性起業家とのネットワーク作りや能力開発に取り組む第一歩を踏み出した。

#### ※【アフリカ開発会議テーマ別会合概要】

- ・日時 平成 25 年 6 月 2 日 (日) 9:00~12:00
- ・場所 パシフィコ横浜/インターコンチネンタルホテル
- ・テーマ 「ジェンダー平等と女性のエンパワメントを通じたアフリカ開発」
- ・議長 ヘレン・クラーク 国連開発計画 (UNDP) 総裁
- ・参加者 ジョンソン・サーリーフ リベリア大統領、ジョイス・バンダ マラウイ大統領、ドラミニ・ズマ アフリカ連合委員長、ラクスマ・プリ 国連女性機関事務局長代行
- ・その他のテーマ  
開発の原動力としての民間セクター、貿易と投資/成長のための基盤整備/ポスト MDG s に向けて/平和構築の強化

第5回アフリカ開発会議公式サイドイベント

Event Affiliated with the 5th Tokyo International Conference on African Development (TICAD V)

# シンポジウム 「女性の活躍と経済成長」 報告書

---



Symposium  
Report on Women's  
Leadership and Economic Growth



主催：横浜市、外務省、経済産業省、JICA（独立行政法人 国際協力機構）  
後援：内閣府  
協力：UN Women（国連女性機関）日本国内委員会

2013年5月31日、パシフィコ横浜（横浜市西区みなとみらい）で、第5回アフリカ開発会議（6月1日～3日）の公式サイドイベントとして「女性の活躍と経済成長」（主催：横浜市、外務省、経済産業省、独立行政法人 国際協力機構（JICA））が開催されました。

アフリカ諸国では、コミュニティの課題を解決する志を持った女性のパワーが、著しい経済成長の原動力となっています。一方、日本は先進国ながら「世界男女平等格差報告書」（The Global Gender Gap Report 2012）で世界135カ国中101位と、OECD諸国の中でも非常に低い順位で、国際的には「女性の力が生かされていない国」とみられ、改善が急がれています。

シンポジウムは、主催者である林文子・横浜市長のオープニングメッセージで幕を開け、ジョイス・バンダ・マラウイ共和国大統領の記念講演、エチオピアやルワンダの女性社会起業家の実践報告とアフリカ開発銀行の支援戦略報告を交えたパネルディスカッションという構成で展開されました。

国際NGO関係者や女性起業家らをはじめとする市民約500人が、アフリカの女性リーダーや女性起業家たちの声に耳を傾け、貧困など社会課題からの脱却を目指し、エネルギーに活躍するアフリカ女性と、我が国の成長戦略で重要な人材として位置づけられている日本女性がともに経験と思想を分かち合い刺激を受ける貴重な機会となりました。

On May 31 2013, at Pacifico Yokohama (Minatomirai, Nishi Ward, Yokohama City), the International Symposium on Women's Leadership and Economic Growth (hosted by Yokohama City, Ministry of Foreign Affairs, Ministry of Economy, Trade and Industry and Japan International Cooperation Agency (JICA)) was held as an affiliated event of the 5th Tokyo International Conference on African Development (TICAD V; June 1-3).

In the African nations, the power of women with a will to solve problems in their communities has become a highly active part of their remarkable economic growth. In contrast, while Japan is a developed country, it was ranked 101st on the Global Gender Gap Report 2012, an extremely low ranking for an OECD member. Japan is regarded globally as a country underusing the strength of women, a problem urgently requiring action.

The symposium began with an opening message by its host Fumiko Hayashi, acting as the host as the Mayor of Yokohama, and featured a commemorative lecture by Dr. Joyce Banda, the President of Malawi, and panel discussions including practical reports by women entrepreneurs from Ethiopia and Rwanda.

It was a precious opportunity for five hundred women entrepreneurs and people involved in international NGOs to hear the voices of African women leaders, and for African women energetically struggling against social issues such as poverty and Japanese women now positioned as key human resources for future growth strategies to learn from and network with each other.

## プログラム (Program)

---

### 13:30 ~ 14:00 オープニングメッセージ (Welcoming Speeches)

林 文子 (横浜市長)

Fumiko Hayashi (Mayor, City of Yokohama)

阿部俊子 (外務大臣政務官)

Toshiko Abe (Parliamentary Vice-Minister for Foreign Affairs)

堂道秀明 (JICA 副理事長)

Hideaki Doumichi (Senior Vice President of JICA)

アーサリン・カズン (WFP 事務局長)

Ertharin Cousin (Executive Director of WFP)

### 14:00 ~ 14:50 記念講演 (Keynote Speech)

「マラウイで、アフリカ大陸で、立ち上がる女性達  
～ Our Time Is Now ～」

“The Rise of Women in Malawi and on the African Continent —  
Our Time Is Now”

ジョイス・バンダ (マラウイ共和国大統領)

H.E. Dr. Joyce Banda (President, Republic of Malawi)

### 15:00 ~ 16:30 パネルディスカッション (Panel Discussion)

「女性の起業が経済を元気に」

“Women’s Economic Empowerment and Entrepreneurship  
Development”

ミツラル・キフレユスス・マチ (Dr. Mitslal Kifleyesus-Matschie)

オディレ・ガチレ・カテセ (Ms. Odile Gakire Katese)

ジネット・ウスレ・ヨーマン (Ms. Ginette-Ursule Yoman)

林 文子 (Ms. Fumiko Hayashi)

田中 由美子 (Ms. Yumiko Tanaka)

# 林文子市長オープニングメッセージ

## Opening Message by Mayor Fumiko Hayashi

敬愛なるバンダ大統領閣下、アフリカからお越しのパネリストのみなさま、大使館のみなさま、本日はご一緒できますことを大変光栄に存じます。

6月1日から3日まで、この横浜で第5回アフリカ開発会議が開催されます。会期中の6月2日は、横浜の154年目の開港記念日です。

1859年のこの日から、世界のひと・もの・情報がこの横浜から日本国内に伝わり、当時わずか100戸余の小さな漁村だった横浜は、いまや人口370万人日本第2の都市へと成長いたしました。



この間、横浜は関東大震災や横浜大空襲など「五重苦」といわれる困難な課題に直面しましたが、一つ一つ解決し、都市として成熟を重ねました。現在、横浜には国内有数の国際港湾など世界に誇る都市基盤と技術があります。最も貴重な財産は、横浜を愛し、横浜のために力を尽くすことをいとわない370万人の市民の力です。

企業経営にも携わった私は「すべての原点は人だ」という信念を持っています。しかし社会・経済は、男性という片方の車輪のみで回っているのではないのでしょうか。女性の力の大部分はまだ眠ったままです。目に見えない障壁があるため、横浜にも十分な高等教育を受けながら、社会で活躍の場を得られない女性がいまいます。

一方、アフリカでは、2人の女性大統領が誕生し、女性国会議員の比率が半数を越える国があります。困難を乗り越えたアフリカ女性の元気な声が、この日本にも聞こえてきます。

本日のシンポジウムは、元気なアフリカの女性たちと、「活躍したい」と願う日本女性とが、互いの経験と思いを分かち合い、社会全体により刺激を与えていく機会にしたいと考え、企画いたしました。

日本では、高等教育を受けた女性の就業率が極めて低く、2011年の民間調査では、大卒女性の72%が離職や休職でキャリアを中断しています。これはアメリカの2倍で、その77%は職場復帰を望んでいます。理由として、出産・育児と仕事の両立が難しいことに加え、女性の能力に期待しない企業文化、家庭と両立できない過酷な労働条件という職場環境に起因する理由が多くなっています。

2012年4月19日、日本の安倍晋三首相は「女性の中に眠る高い能力を開花させることが日本の成長の原動力だ」と語りました。政府は「女性の活躍こそ日本経済牽引の『鍵』である」と成長戦略に位置づけています。

APEC「女性と経済会議」サンフランシスコ宣言（2011年）に際し、米国のヒラリー・クリントン・前国務長官は「日本女性が他の先進国並みに経済参加すれば、日本の国民総生産が約16%向上する。経済の成長と繁栄には、女性の参加と連携が不可欠である」と、力強くスピーチをされ、私は大変勇気づけられました。日本でもアフリカでもさまざまな課題を克服するために、女性の感性と共感力が必要とされています。



女性が経済成長の原動力と認められるまでの道のりは、平坦ではありませんでした。私は1964年に18歳で働き始めましたが、当時の女性には補助業務しか与えられず「一人前の仕事をしたい」と転職を繰り返し、マネジャー、企業経営を経て、市長になりました。

この間、男女雇用機会均等法が施行されましたが、現実には保育所が見つけられずに仕事を辞める女性が後を絶ちませんでした。横浜市長への立候補を要請された際「政治家として女性の活躍を支援することで、男性優位のこの社会を変えていきたい」という強い思いがわき上がりました。

社会を変えるには、意思決定ポストに女性がより多く登用されることが必要です。しかし、日本では経営者・行政トップに女性が少ない。大手企業の役員の割合をみると、米国は15%、欧州10%、一方日本はわずか2.3%です。企業トップに聞くと「管理職にふさわしい能力と経験がある女性が育たない。結婚・出産で辞めてしまう」というのです。

日本で女性の社会進出を阻む大きな障壁の一つは出産・育児と仕事を両立のための制度・サービスが脆弱であることです。自発的に辞めるのではなく、仕事と家庭の両立が困難だからなのです。

その大きな要因に、「保育所待機児童」の課題がありました。保育所というのは働く親に代わり、子どもを預かる公的施設です。働く女性の増加に供給が追いつかず、子どもの預け先がないため仕事を辞めざるを得ないのです。

市長就任当時、横浜の待機児童数は全国ワーストワンの1,552人でした。女性が働き続けるため、最初にして最大の一步の施策は「保育所待機児童をゼロにすること」でした。「できない」と言われ続けましたが、この2013年春、達成することができました。

横浜市の成功の秘訣は「現場主義」です。保育所に入れず困っている市民の事情を聞き、問題解決のヒントにしました。予算を倍増して取り組んだ結果、「待機児童ゼロ」を達成できました。

安倍首相は「全国の約25,000人の保育所待機児童を、5年後の2017年までに解消する」と明確な目標を設定しました。基礎自治体・横浜の取り組みが国を動かしたといっても過言ではないと思います。

1946年、女性参政権が認められて以来、女性の人権や男女共同参画の機会は大きく改善されました。しかし、これまで本当の意味で、女性の力に社会全体が大きな期待を寄せることは少なかったのです。ようやく今、機が熟しました。バンダ大統領、日本も“*Our Time is Now*”なのです。この転機は50年以上、社会で働き続け、女性の困難な状況を見続けてきた私にとって、感動的な瞬間なのです。



本シンポジウム参加者は、日本とアフリカの未来にとって女性の活躍が不可欠だと確信を持っていると思います。その確信を行動に変えましょう。「女性はもっと活躍できる」と声を上げましょう。法や制度が障害になっ

ているならば、改正に向けた運動が必要です。現状に即さない行動様式や思い込みが障壁となっているならば、変えていくための働きかけが必要です。互いのベストプラクティスの交換など、できることを実践していきましょう。

TICAD Vでは、今回「ジェンダー平等と女性のエンパワメントを通じたアフリカ開発の推進」と題したテーマ別会合が新設されました。これまで、国連ミレニアム開発目標の進捗管理の中でひとくくりに議論してきた女性の問題を個別に、しかも経済発展と関連づけて話し合います。これは「アフリカの開発と発展には、女性が大きく貢献する」という強い意志の現れです。

本日、このシンポジウムで語られたこと、議論されたことについて、私はこのテーマ別会合で報告することになっています。ここから発信するみなさんの決意や思いも必ず実現します。ともに行動いたしましょう。



It is a great honor to welcome here today Her Excellency President Banda, our panelists from Africa and those of you from the embassies.

The 5th Tokyo International Conference on African Development (TICAD V) will be held from June 1 to 3 in Yokohama. June 2, the second day of the conference, is the 154th anniversary of the opening of Yokohama as a port.

On that day, in 1859, people, products and information from all around the world began to spread throughout Japan from Yokohama, and what was at that time a small fishing village of only a hundred houses began to grow into Japan's second city of 3.7 million people.

Over this period, Yokohama was confronted with what we call our five great adversities, including the Great Kanto Earthquake and the Bombing of Yokohama, yet we have overcome each of these and attained maturity as a city. Now Yokohama has one of the foremost international ports in Japan and is home to world-class infrastructure and technologies. Our most precious resource is the strength of our 3.7 million



citizens who love Yokohama and are ready to do anything for their city.

I myself, through my experience in company management, believe that everything begins with people. But is it not true that our societies and economies are running only on the one-sided wheel of men? The greater part of the strength of women remains untapped. Because of invisible barriers, even in Yokohama there are women who are unable to be active in society despite having gained a full tertiary education.

In contrast, Africa has two women presidents, and in some African nations women make up the majority of the members of parliament. The powerful voices of African women who have overcome much struggle are now reaching as far as Japan.

This symposium was proposed as a chance for vibrant African women and Japanese women who wish to be more active to share their thoughts and experiences together, to give a bracing stimulus to society as a whole.

In Japan, the percentage of women with a tertiary education who are employed is extremely low; a private survey in 2011 showed that 72% of female graduates have left work or are absent from it, giving up their careers. This is double the figure of the USA, yet of these women 77% wish to return to the workforce. Many of the reasons for this, in addition to the difficulties of combining work with child-rearing, have their roots in the workplace environment, with corporate cultures that are not open to the talents of women and oppressive working conditions incompatible with family life.

On April 19 2012, Japan's Prime Minister, Shinzo Abe, said that "Making the powerful strengths lying dormant in women awake will be a driving force for Japan's growth." Our government has positioned in its growth strategy the empowerment of women as the key to bolstering the Japanese economy.

At the San Francisco Declaration of the APEC Women and the Economy Summit (in 2011), Hilary Clinton, the former Secretary of State of the USA, gave a powerful speech in which she stated that Japan's GDP would increase by 16% if Japanese women could participate economically at the same level as other countries, and that the participation of women was indispensable to economic growth and prosperity, which greatly encouraged me. The sensitivity and empathy of women are vital to overcoming the many problems facing both Japan and Africa.

It has not been a smooth road to reach the point where women are recognized as a driving force for economic growth. When I began work at 18 in 1964, women were only given the work of assistants; I changed jobs repeatedly in search of being given real work, becoming a manager and corporate executive before becoming mayor.

During that time the Equal Employment Opportunity Act for Men and Women was enacted, but there was no end of women quitting their work because they couldn't actually find a day-care center. When I was asked to put my candidacy forward for the mayoralty of Yokohama, I felt a strong desire to support the



empowerment of women as a politician and to change this male-dominated society.

In order to change society, we need to have more women appointed to decision-making posts. But there are few women at the top level in management or administration in Japan. Percentages for female board members in major companies are 15% for the USA, 10% for Europe, yet only 2.3% for Japan. The heads of these corporations say that it is hard to nurture women with the right talents and experience for management positions. So many of them quit when they get married and have children.

One of the biggest barriers blocking women from participating in society in Japan is the weakness of systems and services allowing them to have children and continue working. Women don't quit of their own will, they do so because of the difficulty of matching work and family life.

A major factor in that is the number of children waiting to get into a day-care center. These are public facilities that look after children while their parents are working. Their numbers have not kept up with the increase of working women, forcing women to quit because they cannot find anywhere to look after their children.

When I became mayor, Yokohama was the worst city in Japan for this, with 1,552 children waiting for a place in a day-care center. My first important step towards getting women to continue working was to bring this number down to zero. Some people said this was impossible, yet we achieved it by spring 2013.

The secret to our success in Yokohama was our grassroots focus. By listening to the stories of our citizens who were unable to use these facilities, we gained clues as to how to solve this problem. By doubling our budget, we finally got the number down to zero.

Prime Minister Abe has set a clear target of solving the problem of the approximately 25,000 children unable to enter day-care centers nationwide in five years time, by 2017. I don't think it is an overstatement to say that our actions here in the municipality of Yokohama have stirred up a nationwide effort.

Since women were given the vote in 1946, we have made great strides in improving the rights of women and equal opportunities. But up until now there was little expectation of women's capacities seriously enhancing society. At long last, that time has come. President Banda, in Japan too, "Our Time is Now." For myself, having worked over fifty years in society and having seen for myself the difficulties that face women, this is a momentous time.

Those of you here at this symposium believe that women's empowerment is indispensable for the future of Japan and Africa. Let us turn that belief



into action. Let us say together that women will become empowered to do more. If laws and systems are blocking us, then we need to lobby to change those laws and systems. If behavioral patterns and ways of thinking form an obstacle that hinders us, we must work to change them. Let us share our best practices and move to make them a reality.

TICAD V has set up a new panel focusing on the importance of gender equality and the empowerment of women in driving development in Africa. Women's issues that so far have been discussed as part of the progress of the United Nations Millennium Development Goals will be considered in relation to economic development, even if singly. This shows the strong aspiration of women to contribute strongly to the development and growth of Africa.

I will report at a thematic session on what has been talked about and discussed at this symposium. We will without a doubt realize the determination and ideas that you state here. Let us take action together.



## 林 文子 (Ms. Fumiko Hayashi)

横浜市長。BMW 東京(株)代表取締役社長、(株)ダイエー代表取締役会長兼 CEO、日産自動車(株)執行役員、東京日産自動車販売(株)代表取締役社長等を歴任後、2009 年、横浜市初の女性市長となる。

ウォールストリートジャーナル紙「注目すべき世界の女性経営者 50 人」(2004 年)、米フォーチュン誌「世界ビジネス界で最強の女性 50 人」(2008 年)に選出された。

**Fumiko Hayashi** is the Mayor of the City of Yokohama. She was elected as the first woman Mayor of Yokohama in August 2009. Before assuming office as Mayor, she served as President of BMW Tokyo, Corp., Chairperson and CEO of The Daiei, Inc., Operating Officer of Nissan Motor Co., Ltd., and President of Tokyo Nissan Auto Sales Co., Ltd. Selected as one of Wall Street Journal's "50 Women to Watch" in 2004 and one of Fortune Magazine's "50 Most Powerful Women in Business: International" in 2008.

## 阿部俊子 外務大臣政務官あいさつ

### Message from Toshiko Abe, Parliamentary Vice-Minister for Foreign Affairs

私は政務官就任後、この半年でアフリカ 5 カ国を訪問し、多くのアフリカ女性の活躍を目にしました。同時に社会的制約により、女性たちがその能力を発揮できてない現実も実感いたしました。もし、アフリカ 5 万人の女性がさらなる社会進出を果たし、その潜在的能力を発揮できれば、アフリカ全体の経済成長が進むことは間違いありません。

「ミレニアム開発目標」の主要なテーマとして「性と生殖における健康＝リプロダクティブヘルス」が挙げられています。母親の教育水準が高くなるほど、妊娠・出産で死亡する可能性は低くなり、子どもの生存率・就学率も高くなるといわれています。



しかしアフリカでは、毎年 25 万人以上の女性が妊娠・出産で命を落とし、また、2 億 2200 万人の女性が効果的な家族計画を利用できず、7500 万件の望まない妊娠が発生する現状があり、女性の教育の機会を妨げ、女性の生産性と生活の質を低下させるという「貧困の連鎖」を招いています。

日本女性の社会進出も、楽観できません。日本は先進国の中で最下位の方にとどまっています。安倍総理は「現在の日本で最も生かし切れていない人材とは女性であり、女性の活躍を成長戦略の中核に据える」として、社会のあらゆる分野で 2020 年までに指導的地位に女性が占める割合を 30% 以上とする目標を掲げ、努力をしています。

日本は、2005 年の「ジェンダーと開発イニシアチブ」に基づき、政府開発援助を活用しつつ、ケニアの農村開発など女性の社会参画に留意した案件を着実に積み上げています。特に今年は女性関連課題を日本外交の優先テーマの一つに位置づけ、引き続き、アフリカをはじめとする国際社会の取り組み、日本自身の国内啓発など女性が活躍する社会の構築に取り組んでまいります。

本シンポジウムで、女性のさらなる活躍によって経済が元気になるような示唆に富む議論を期待しております。



Since becoming a parliamentary vice-minister, I have visited five African nations and seen how many African women are active in society. I have also experienced for myself the reality where women cannot make use of their abilities due to the restrictions of society. Without a doubt, if 50,000 African women were able to enter society and put to use their hidden potential, it would bolster the whole of African economic growth.

One of the main themes of the United Nations Millennium Development Goals is to improve maternal health. The higher the educational level of mothers, the lower the chance of deaths in pregnancy / childbirth, and the better the survival rate and school attendance rate of the children.

But in Africa every year 250,000 women lose their lives during pregnancy and childbirth, plus 222 million women do not have access to effective family planning, leading to 75 million unplanned pregnancies. This creates a cycle of poverty in which women's educational opportunities are blocked and the productivity and quality of life of women are lowered.

We cannot be optimistic about the involvement of Japanese women in society either. Japan's ranking for this is the lowest in the developed nations. Prime Minister Abe has stated that "Women are Japan's most underused resource" and has positioned active participation by women as a core growth strategy, setting and striving for a goal of having over 30% of positions of leadership in every field of society filled by women by 2012.

Japan has made use of official development assistance under the 2005 Gender and Development Initiative to steadily build up projects focusing on women's participation in society, such as the development of farming villages in Kenya. This year in particular, issues relating to women have been positioned as a priority theme for Japanese diplomacy, with continuing efforts in initiatives in the international society, starting with Africa, as well using awareness raising to construct a society within Japan where women can be more active.

I look forward in this symposium to discussions that can offer ideas towards how women's greater roles in society can lead to brighter economies.



## 堂道秀明 JICA 副理事長あいさつ

### Opening Remarks by Hideaki Domichi, Senior Vice President, JICA

マラウイで、アフリカ大陸で立ち上がる女性たち。本シンポジウムでの“*Our Time is Now*”というマラウイ共和国のジョイス・バンダ大統領の講演テーマに、我々は大変勇気づけられ、アフリカ大陸の明るい未来を確信しています。

これまで、国際社会の包摂的かつ、持続的発展のためには、女性のエンパワメント、及びジェンダー主流化の促進が不可欠であるということが、繰り返し強調されてきました。

しかし、依然多くの開発途上国では、男女格差が大きく、様々な不平等な制度や慣習が残っています。こうした中アフリカ連合では、2010年-2020年を「アフリカ女性の10年」と定め、ジェンダー平等と女性のエンパワメント推進に力を入れています。



JICAも、途上国の経済や社会の発展のためには、女性のエンパワメントと女性がその能力を発揮することができる環境や制度作りを進めることが不可欠であるという認識のもとに、さまざまな支援を行ってまいりました。ケニアの農業プロジェクトでは、それまで男性のみが意思決定していた農家経営に女性の参画を促す工夫を加えたことがきっかけとなり、農家の収入が倍増するという成果を挙げました。

今回のパネリスト、オディレ・ガチレ・カテセさん（ルワンダ）、ミツラル・キフレユスス・マチさん（エチオピア）とは、一村一品事業を通じて協力関係を構築してきました。女性の能力や地域資源に着目し、画期的なアイデアでビジネスモデルをつくりあげ、女性のエンパワメント、地域経済の活性化に貢献するお2人の話を楽しみにしています。

今回のシンポジウムが、アフリカ開発という文脈だけでなく、日本社会における女性の活躍を考える上でも、大いなるヒントを与えてくれるものと期待しています。

JICAでは「女性の力がアフリカの輝く未来のためのカギとなる」という確信のもと、引き続き協力を進めてまいります。

The President of the Republic of Malawi, Joyce Banda, will give us a keynote speech with the title of “The Rise of Women in Malawi and on the African Continent ~Our time is now~.” This theme offers us great encouragement and assures us of a bright future for the African continent.

The empowerment of women and promotion of gender mainstreaming have been repeatedly emphasized as being critical to achieving the inclusive and sustainable development of the international society.

However, a huge gender gaps as well as various discriminatory systems and practices still exist in many developing countries. Under such circumstances, the African Union declared 2010 - 2020 as the “African Women’s Decade” and is endeavoring to promote gender equality and the empowerment of women.

JICA has also promoted the empowerment of women and the building of an environment where both men and women can make the most of their abilities.

For instance, we were involved in an agriculture development project in Kenya and helped the farmers to double their income through promoting women's equal participation in farm management, which had been dominated by men.

Ms. Odile Gakire Katese from Rwanda and Dr. Mitslal Kifleyesus-Matschie from Ethiopia, panelists of today's symposium, have developed a cooperative relationship through the One Village One Product project. By focusing on women's abilities and local resources, they developed a business model based on their innovative ideas and contributed to women's empowerment and revitalization of local economies. I look forward to hearing their presentations.

I believe this symposium will give us a significant insight into women's leadership in Japanese society along with development in Africa.

JICA will continue to extend further cooperation based on the firm belief that "The power of women is the key to a brighter future for Africa."





## アーサリン・カズン WFP 事務局長

### Opening Remarks by Ertharin Cousin, Executive Director, World Food Programme

WFP は 9000 万人の飢餓・貧しい人々に食糧を援助しています。この事業を支援し、連帯の心を示されていることに感謝しています。

多くの途上国では女性が変化の触媒として活躍し、かつてない経済成長・変化を女性の手で遂げようとしています。途上国では働いている女性の 79% が食糧生産に従事しています。多くは農家で、農家の 43% は女性ですが、賃金は男性より 20% も低い状況です。

それは、様々なリソース活用が制限されているからです。女性の農業者・途上国の女性にそれらを提供することで、飢餓を減らし、1 億 5000 万人の飢えた人々を救うことができます。WFP は女性の農業従事者に投資しています。その他の国連機関と協力し、女性たちの可能性を開花させ、食糧を増産し、自分たちが使うことができるようにします。

例えばケニアは 2009 年以降、女性が参加して、土壌・水の改良をする簡単なプログラムを導入し、作物収量を増やしました。以前はメイズ（とうもろこし）の収量が 270 キロでしたが、いまや 450 キロです。子どもを学校に行かせることができるようになりました。

女性がコミュニティをつくり、そしてそのコミュニティから発信された手法によって国が前進し、さらに開発が進むという一つの例でしょう。何百万人も女性や子どもたちが、過去のしがらみ・拘束から解放されて、活躍してほしいと思います。

本シンポジウムが、アイデア・意見交換、経験の交流の機会として、大きな実りのある場となることを祈念しています。

The World Food Programme (WFP) engages in food assistance to 90 million hungry people in poverty. We appreciate the support given to this project and the spirit of solidarity extended to us.



In many developing countries, women work as a catalyst to bring about change and to attain unprecedented economic growth and transformation. In those countries, 79% of working women engage in food production primarily at farms. Many of these are farmers, but although women comprise 43% of the agricultural labor force in developing countries, their income is 20% lower than that of men.

The reason for this is that women face limited access to various resources. Provision of such resources to the women engaged in agriculture or living in developing countries will reduce starvation and save 150 million starving people. The WFP makes investments for the sake of women in the agriculture sector in partnership with UN organs in other countries, with the aim of allowing the latent abilities of women to come to fruition, to increase food production and to ensure they can consume what they produce.

For instance, since 2009, Kenya has increased crop yields through introducing a simple program to improve soil and water with the involvement of women. Yields of maize (corn) have increased from 270 kilograms to 450 kilograms, enabling children to go to school.

This is an excellent example of how women form communities from which methods arise and are communicated to help a drive the country forward and to bring about further development. It is my hope that millions of women and children will be freed from past conventions and restraints to assume leading roles in the future.

I believe that this symposium will create a fine opportunity for all of us here today to exchange and share our ideas, opinions and experiences.



## アーサリン・カズン (Ms. Ertharin Cousin)

2012年4月5日に12代目国連世界食糧計画（WFP）事務局長に就任。25年以上にわたり、国内外の非営利団体、政府、企業を率いて、飢餓や食糧問題、「回復戦略」を中心に指導的経験を果たした。カズンは、緊急の食糧ニーズを満たすため世界食糧計画を指導する一方、食糧不安と飢餓に対する長期的問題解決を主導する。

**Ertharin Cousin** began her tenure as the twelfth Executive Director of the United Nations World Food Programme on 5 April 2012. Ms. Cousin has more than twenty-five years of national and international nonprofit, government, and corporate leadership experience focusing on hunger, food, and resilience strategies. Cousin oversees the World Food Programme to meet urgent food needs while championing longer-term solutions to food insecurity and hunger.

## ジョイス・バンダ大統領講演

Keynote Speech by H.E. Dr. Joyce Banda,  
President of the Republic of Malawi

本シンポジウムにおいて、ごあいさつできることを大変光栄に感じています。そして、このシンポジウムに参加させてくださった林文子横浜市長に心から感謝しています。また、この第5回アフリカ開発会議において、女性の社会進出や活躍に関する課題を目に見えるものにくださったことにお喜び申し上げるとともに、市長のリーダーシップに敬意を表します。我々、世界中の女性が様々な場面で、様々な責任を引き受けるようになっており、このシンポジウムのテーマである「女性の活躍と経済成長」は時機を捉えたものだと感じています。「女性の活躍と経済成長」に関する議論は、アフリカを含む世界中の女性が直面している、様々な挑戦を反映しているものだと思います。



これらの挑戦は、何百万人もの人々、特に女性や子どもの生活に大きな影響を与えるものです。そして、その影響は、直接的に関係のない人々にも及ぶことでしょう。なぜならば、それらは、国、地域そして世界の経済成長に影響を与えることになるからです。そして、いずれの国においても、経済成長と女性のおかれた状況の間には、直接的な関係性があるのです。

人口増加に影響する、栄養失調、女兒の教育へのアクセス、妊婦保健、そして貧困といった課題は、全て家計収入の不足に関連しています。我々、マラウイ政府にとって、これらの課題を克服するために、生活に十分な収入を家計にもたらすような政策や施策の実施を促進する必要があります。もし、家族が十分な収入を得られれば、よりよい教育のために、子どもを学校に通わせることができます。そして、健康的な生活を選ぶことができるようになるでしょう。また、計画的な出産を行えるようになります。実際、女性が「稼ぎ手」になった時、最初に彼らが行うことは、それ以上の子どもを持つことをやめるということを経験が示しています。

多くのアフリカ諸国で、女性は様々な法律的、経済的、社会的挑戦に直面してきました。これらの不利な状況は、女性や女兒を社会の「余白」に追いやっています。多くの家庭では、女兒は教育を受ける機会が不足しています。多くのアフリカの家庭では、収入が低い場合、男児の教育を優先させることが依然として一般的なことになっています。皆さんもお気づきかもしれませんが、公式な教育や訓練へのアクセスが不足していることは、女性の雇用や社会進出の大きな障壁となっているのです。

1997年におきた紛争の避難民、住む場所を追われた人々、紛争後の帰還者の大多数は女性と子どもでした。親、教育者、信仰、そしてメディアにより植えつけられる固定観念と社会は、ある職業は専ら男性のためであり、結果として、女性の多くは女性化された仕事に就くという慣習を助長しています。いくつかのアフリカ社会の慣習法では女性を「二流」と見なしており、ほとんどの場合、これらの女性は土地や相続に関する権利を享受していませんでした。このことは、男性への依存を高めました。更には、「二流」としての女性の扱いは、女性に銀行口座の開設や資金の貸付といったことを法律で禁止してきました。また、女性は、男性たちのような生産活動へのアクセスすることができませんでした。たとえば、土地、農業、貿易、技術、その他の活動は、男性の役割でした。1960年代に起きた独立運動やアフリカの民主化運動における女性の積極的な参加の後でさえも、女性は目立った、意思決定者としての立場を得ることはありませんでした。

これらは、アフリカの女性が味わってきたことの一例に過ぎません。しかしながら、アフリカの女性はただ座ったまま、社会の「余白」に押し込められたわけではないということをお伝えできることをうれしく思います。アフリカの女性は、社会における正当な地位を求め、声を上げてきました。そして、自分たちの雇

用に対して議論を推し進めてきました。ここに世界のリーダーが集まっていることやリベリアのエレン・ジョンソン・サーリーフ大統領の次に、アフリカの二番目の女性元首となれたことは私の誇りです。しかし、私が大統領になったことは、一個人の成功談ではなく、アフリカの人々の成功です。女性リーダーとして、我々は、子どもたちが栄養失調に苦しむのを許すべきではありません。我々は、子どもたちが木の下で学ぶことを許すべきではありません。むしろ、適切な教室で学ぶべきだと考えます。我々は、保健センターが遠いという理由で、出産の際に母親が死亡するようなことを許すべきではありません。女性リーダーとして、世界の未来を担う若者が、自らの潜在的な能力を認識する機会がほとんど無いという状況を許すべきではありません。

これらの課題が依然として存在している限り、我々の経済は持続可能な経済成長を達成することはできないでしょう。何十年にも渡り、マラウイで、私は人権活動家として、自分の草の根レベルの仕事を通じて、これらの課題と戦ってきました。私は、貧困層の苦しみやマラウイ女性の苦痛を経験してきました。私は、虐げられた人々や「余白」に追いやられた人々の地位の向上を擁護してきました。そして、女性と子どもの権利のために戦い、農村部や都会にいる貧しい人々のために運動を起こしてきました。今、マラウイ共和国の大統領として、私はビジョンを持っています。私のビジョンとは、経済成長と富の創造を通じ、貧困を撲滅することです。我々は、経済構造を変革し、民間企業を支援することにより、富を創り出すことを狙いとしています。仕事の創出を加速し、分権化した、民主的な環境から締め出されてしまったような、脆弱な人々を守ることに。つまり私のビジョンは、次の10年で、マラウイを最も早く成長を遂げたアフリカのエコノミーにすることです。私にとって、成長とは、単にGDPの成長をさすものではありません。成長とは、全ての人にとっての富と繁栄をさします。全ての人々の繁栄。全ての人々の機会。全ての人々の幸せ。全ての人々の政治的、かつ経済的な自由。成長とは、子どもたちが教育を受ける機会を増やし、改善することであり、若者たちの仕事を創造することです。成長とは、安全な場所での出産できる母親の数が増えることでもあり、食べ物保障された家族の数が増えることです。私にとって、そういうことが成長です。

1年前、マラウイは、貧弱な政治的、経済的ガバナンス（統治）が引き起こした深刻な経済社会課題に直面しており、私は、ほとんど崩壊しかけた経済状況にあった国の統治を引き継ぐことになりました。これらの課題はミレニアム開発目標の達成にも影響を及ぼしていました。それゆえに、目下のマクロ経済的課題に取り組むため、また、ミレニアム開発目標を達成するための国内の体制を確保するため、大統領に就任するなり、私は直ちに国内のマクロ経済の安定化を図るための経済回復施策を打ち出しました。力強く、抜本的な決定を行い、先取的かつ包括的な政策を実施した結果、マラウイの経済は回復し始め、2012年には1.4%だった経済成長が、2013年は4.9%に達する見込みです。

私たちの政府は、マラウイの潜在力、土地、資源、そして、最も重要な国民の潜在力がとても素晴らしいものだということを認識しています。しかし、機会というのは、我々の努力によって、得られるものです。力強い決定を行う、我々の想いはここで終わりません。経済は好転し、インフレーションは収まり始め、通貨は安定しています。今、我々は、回復から繁栄と成長に動いています。我々政府は、エネルギー、観光、農業、鉱山開発、そしてインフラ開発という5つの優先課題を実現することを重視しています。

マラウイは、開発の下にある、悪循環の中に決して留まりません。我々は、状況を変えることには積極的に関わります。しかし、そうするためには、マラウイ政府とマラウイの人々は、世界的なコミュニティを自分たちの取組みに巻き込む必要があることを知っています。我々は、多くの方が示してくださる善意やパートナーの支援に感謝しています。マラウイは、引き続き、短期的にも、中期的にも支援を必要としています。我々は、食糧不足や干ばつから農村部の貧しい人々を守るための支援を必要としています。我々は、農業加工、観光、鉱山開発における潜在力に対し、民間投資をひきつけるための支援を必要としています。交通や通信

インフラを開発するための支援、市場へのアクセスや地域的、アフリカ国家間貿易を改善するための支援を必要としています。我々の国際的なパートナーによって支援されているアフリカの努力は、持続的な成長促進という観点において、注目に値する進歩を見せています。

アフリカは、成長と加速について、驚くべき速度を記録しています。この2年間で最も成長する10の国家のうち、7つがアフリカの国です。これらの中心に  
いるのは、やはり女性です。しかし、いまだにアフリカのいくつかの国々は壊れやすく、脆弱な状況にあります。インフラは未開発であり、それは、地域的な統合を妨げ、企業の競争や国際社会による接触機会を減少させています。成長とは、性別や年齢、地理的不平等を減少させるために、生産的な仕事や経済的機会を生み出すような、包括的なものでなければなりません。これは、まだアフリカでは起きておらず、女性が男性の後ろに取り残されている限り、成長はありません。裕福な人と貧しい人の格差は非常に大きいものがあります。アフリカの人口の70%が農村部に住んでおり、道路、電気、水道水の利用ができません。インフラは成長に不可欠であり、それなしに、技術的に進み、貿易に必要なインフラを持った世界の国々に対し、アフリカは太刀打ちできません。それでも、アフリカの多くの国々は、経済の安定化や成長速度の強化において、素晴らしい進歩を遂げてきました。



この尊敬すべきシンポジウムの中で、マラウイの人々は私と一つの旅路を共にしているとお伝えしたいと思います。運命を変える旅路。本当の変化を起こす旅路。民間企業の成長を促す旅路。そして、世界的なコミュニティの一部になるための旅路です。

皆さん、もし、我々女性が男性の後ろに取り残されていたら、このことを起こすことができません。なぜならば、女性たちが収入を得られたら、家庭の収入や家計に貢献し始めたら、尊敬を集め、自分たちに影響を与えるような課題について、意思決定を始めることができるからです。

皆さん、もし、女性が意思決定の場に関われなかったら、アフリカの国々は、進歩することができないでしょう。私は、アフリカの男性はまさに賞賛に値すると、誇りを持ってお伝えしたいと思います。なぜならば、アフリカの男性は、女性がリーダーシップをとることを決めたのです。そして、女性がリーダーシップをとる時は今であると。私は、このことを誇りを持ってお伝えしたいと思います。なぜならば、この世界には、女性が国会議員になることさえ難しい国があるからです。しかし、アフリカは、それをやり遂げたのです。だからこそ、アフリカの男性が賞賛されるに値するのです。

私自身、ジョイス・バンダとしては、お腹をすかせたまま、ベッドに入る子どもがいる限り、眠ることはないでしょう。出産中に亡くなる女性がいる限り、休みません。抵抗する手段が無いからといって、性暴力や家庭内暴力に無言のまま苦しむ女性がいる限り休みません。収入が無いからといって、学校に行けない子どもたちがいる限り休みません。私は、このことを30年間に渡り言い続けてきました。そして、それを変えたことはありません。貧困と戦わなければ、戦うまで、家庭に収入がなければ、収入を得るまで、子どもたちは働き手として生まれ続けることになります。女性は、家計に貢献できないという理由で苦しめられ続けることでしょう。そして、あまりにも早い結婚が原因で、亡くなるのが続くでしょう。彼女たちは、自

## ジョイス・バンダ大統領講演

Keynote Speech by H.E. Mrs. Joyce Banda,  
President of the Republic of Malawi

由ではないために、中学校に行くことができないのです。家庭に収入がなければ、そして収入を得るまで、アフリカにおける状況は改善しないでしょう。私にとって、私の使命はとてもシンプルです。私の仕事が終わるまで、働き続けるだけです。

私は、心から願っています。私は、この旅路を共に歩きたいと思っている人々と対話をしたい。そして、マラウイは、富や機会、人々の希望や自由を大切なものとして扱う準備ができています。女性の大統領として、皆様の支援をお願いします。マラウイという1つのアフリカの国は、その潜在力、マラウイ人の潜在力、女性の潜在力、アフリカの人々の潜在力を認識するために新しくなろうとしています。



ご清聴ありがとうございました。

I feel greatly honored to deliver a statement at this symposium. I wish to thank Madam Fumiko Hayashi, mayor of the City of Yokohama, for inviting me to participate in this important symposium. I wish to congratulate you for making women's issues visible at this TICAD. I salute your leadership in this regard. The theme of this conference, the symposium on women's leadership and economic growth is very appropriate in these times as we women, assuming proportionate responsibilities in various disciplines across the world. The theme and the debate "women's leadership and economic growth" allows us to reflect on some of the challenges women are faced around the world, including in Africa.

These challenges have devastating effects on the lives of millions, especially, women and children. The impact of these challenges goes beyond the people directly involved as they affect the economic growth of the countries, regions and the world. There is a direct connection between economic growth and the status of the women in any given country.

Madam Chairperson, the issues that affect population growth, malnutrition, girls' access to education, maternal health and indeed poverty are all linked to lack of income at house of live. For our government, to overcome these challenges, we need to promote policies and programs that bring decent income into households. When a family has a decent income, it can send the children to school for a better education. It can choose to live a healthy life style. And it can choose to have fewer children that they can afford to bring up. In fact, the moment women become income earners in their home, experience has shown that the first thing they do is to stop having more children.

Chairperson, in most African countries, women have over time faced a variety of legal, economic and social challenges. These disadvantages placed women and girls at the margins of society. In most homes, girls lack opportunity to access education. It is typical that in most African families, when the resources are low, they prioritize boys' education over girls. As we all may be aware, lack of access to formal education and training has been identified as a key barrier to women's employment and advancement in society.



The majority of the estimated 8.1 million refugees, displaced persons and post-conflict returnees in Africa in 1997 were women and children. Sex stereotyping on the part of parents, educators, religion, and media and society at large encourage the practice that certain jobs are exclusively for men, and as a result the majority of women remained in the feminized jobs. In some African societies, customary laws regarded as that women are minors and these women in most instances did not enjoy property and inheritance rights. This increased their dependence on men. Treatment of women as minors manifested in formal provisions banning women to open their own bank accounts and apply for credit in their own right for instance. Women have not enjoyed access to factors of production like their male counterparts. For example, land, agriculture, imports, technology and extension services were the preserve of the male folk. Even after women's active participation in the fight for independence in the 1960s, and the deliberation movements in Africa, women did not get prominent decision-making positions to correspond to their input in the struggle.

Therefore, Chairperson, the above are a few examples of where African women have come from. However, I am pleased to share with you that African women have not just sat back and accepted being pushed into the margins of society. African women have risen up to claim their rightful place in society, and drove their agenda for their own empowerment. Joining the world's leaders here and becoming only the second female head of state in Africa's history after Her Excellency, President Ellen Johnson Sirleaf of Liberia, is a moment of pride for me. But mine is not the story of success of an individual, but of the people of Africa. As women leaders, we should not allow children to suffer from malnutrition. We should refuse to allow our children to learn under trees rather than proper classrooms. We should refuse to allow mothers to die while giving birth, because the nearest health center is too far away. As women leaders, indeed, we should not allow our youth, who represent the future of our world, have few opportunities to realize their potential.

When these challenges are prevalent, our economies cannot meaningfully achieve sustainable economic growth. For decades, I've fought these issues in Malawi, as a human rights activist and through my work at grassroots level. I have experienced the struggle of the poor and the suffering of Malawian women. I have championed the advancement of the oppressed and marginalized, fought for the rights of women and children, campaigned for betterment of the rural and urban poor. Now, as the president of the Republic of Malawi, I have a vision. My vision is to eradicate poverty through economic growth and wealth creation. We aim to create wealth by transforming the structure of our economy, promoting the private sector in order to achieve economic growth. Accelerate job creation and protect the vulnerable and excluded within a decentralized and democratic environment. My vision specifically is to transform Malawi to become the fastest growing African economy in the next decade. For me, growth is not merely about gross domestic products (GDP) growth. Growth is about wealth and prosperity for all. Prosperity for everybody. Opportunity for all. Happiness for all. Political and economic freedom for all. Growth is also about growing and improving access to education for our children and creating jobs for our youth. Growth is about growing the number of mothers who give birth in a safe place in a hospital, of growing the number of families who are food secure. For me that is what growth is.

A year ago, I took over an economy that was near collapse as Malawi faced severe economic and social challenges brought on by poor political and economic governance. These challenges impacted on our ability to accelerate the attainment of Millennium Development Goals. Therefore, upon assuming office, I immediately put in place an economic recovery program to restore macroeconomic stability in the country, so that we address our immediate microeconomic issues, but also secure Malawi's abilities to meet the

MDG's targets. I am pleased report that after taking very tough decisions implementing pro-growth and inclusive policies, the Malawi economy has started recovering and the economy is projected to grow at 4.9% this year from 1.4% in 2012.

Chairperson, my government realizes that the potential of Malawi is great, the potential of our land, our resources and most importantly of our people. But this opportunity will only be seized through our own efforts. Our willingness to take tough decisions does not end here. The economy is turning around, inflation has started going down and the currency is stabilizing. We are now moving from recovery to prosperity and growth. Government is now focusing on realizing the priority set in the 5 priority sectors of energy, tourism, agriculture, mining and infrastructure development.

Chairperson, Malawi refuses to remain in a vicious circle of under development. We are committed to change the situation. But in doing this, my government and indeed the people of Malawi know that we need to engage the rest of this global community. Within days of taking office, I reopened dialogue and engagement with our neighbors, with African leaders, and indeed, with the rest of the world. We are grateful for the goodwill that many have shown us and encouraged by the support of our partners. Malawi will continue to need the global support in the short and medium term. We need the support to protect the rural poor from food shortages from the drought expected in some districts. Support to attract private investment for the potential we have in agro-processing, tourism and mining. Support to develop transport and communication infrastructure in our land and to link nation in order to improve the country's access to markets and improve regional and inter-Africa trade. African efforts supported by our international partners have made considerable progress in promoting sustainable growth.

Africa has recorded an impressive rate of growth and acceleration. It is expected that seven out of ten fastest growing nations over the next two years will come from Africa. At the center of all this are women. But still some countries in Africa remain in fragile or vulnerable situations. Infrastructure remains under developed, hindering regional integration and reducing enterprise competitiveness and global reach. Growth has to be inclusive to generate enough productive jobs and economic opportunities to reduce inequality across gender, age and geography. This has not happened in Africa yet, and as long as women are left behind, growth shall not be experienced. The gap between the rich and the poor is very wide. Seventy percents of the African population is rural and has no access to roads, electricity, and piped water. Infrastructure is vital to growth as, without this, Africa cannot compete with the world which is advanced in technology and has the enabling infrastructure for trade. Many countries in Africa have achieved great progress in stabilizing our economies and consolidating our rate of growth.

Chairperson, I say this to this esteemed symposium that Malawians have joined me on a journey. A journey to change its destiny. A journey to transformation and make real change happen. A journey to foster private sector growth. A journey to be an integral part of global community.

Distinguished ladies and gentlemen, this will not happen if our women are left behind. Because, when they make an income, when they begin to contribute to incomes and economic status of their household, they earn respect and they begin to make decisions on issues that affect them.

Distinguished ladies and gentlemen, unless women are included in the decisions that we make, our countries in Africa shall not make progress. I am proud to report that men of Africa need to be commended, because men of Africa have decided to provide space for women to participate in leadership. And men decided that

time is now for women to participate in leadership all the way to state house. I said this with pride, because there are parts of this world where people are still struggling to get a woman into state house. But Africa has done it. And therefore, men of Africa need to be commended.

As for me, as Joyce Banda, I will not sleep as long as children go to bed hungry. I shall not rest when women die giving life. I shall not rest for as long as women suffer in silence through gender-based violence or domestic violence, because they have no means. I shall not rest as long as children are failing to go to school, because households don't have an income. I've said this for thirty years and I've never changed my story. I have said unless and until we tackle issues of poverty, unless and until households have an income, children continue to be born because they are regarded as worth; and women will continue to suffer because they can't contribute to their household; and women will continue to die because they are getting married too early – they cannot go to secondary school, because it is not free. Unless and until we put income into the household, the situation in Africa shall not improve. As for me, my task is simple. I am going to work until the job is done.

And I am sincerely hoping I am talking to people that want to join me on this journey. Malawi is ready to take to be counted. To be counted for her wealth, her opportunity, and for the hope and freedom of her people. As a woman president, I ask for your support, as this one African country called Malawi, repositions to realize its full potential, potential for Malawians, potential of women and potential of all African people.

I thank you for your attention, and may god bless you.



## ジョイス・バンド (H.E. Dr. Joyce Banda)

マラウイ共和国第4代大統領であり、同国初の女性大統領。大統領就任以前、2006年から2009年に外務大臣、2009年から2012年まで副大統領であった。2004年に国民議会議員に選出され、ジェンダー・児童福祉・地域サービス大臣として活躍した。

国際舞台では、現在アフリカの41か国で活動しているアフリカ女性起業家連合 (AFWE)、アフリカ女性経済的エンパワーメント委員会 (CEEWA) およびアメリカ・アフリカビジネス女性同盟 (AABWA) の創始者である。

**Joyce Banda** is the fourth President of the Republic of Malawi and the first female president in Malawi. Prior to this, H.E. Dr. Banda was Minister of Foreign Affairs from 2006 to 2009 and Vice President of Malawi from 2009 to 2012. She was first elected as a Member of Parliament in 2004 and served as Minister for Gender, Children's Affairs and Community Services. On the international scene, H.E. Dr. Banda is a founding member of the African Federation of Women Entrepreneurs (AFWE) which currently operating in 41 countries in Africa, as well as of the Council for the Economic Empowerment of Women in Africa (CEEWA) and the Americans and Africans Business Women's Alliance (AABWA).

# 女性の起業が経済を元気に

## Women's Economic Empowerment and Entrepreneurship Development

### 1. 討論導入部

#### 1. Introduction to the panel discussion

本日、コーディネーターを務める JICA 国際協力専門員の田中由美子です。本日の討論の目的は、アフリカの草の根レベルの 2 つの女性グループの代表者をエチオピアとルワンダからお招きし、どうすれば女性の起業活動が活発になり、女性が経済的に力をつけることが家族の幸せや地域の振興にどのように貢献していくのかということについて、市民の皆様とともに考えていくことです。



I am Yumiko Tanaka, the senior advisor on Gender and Development of the Japan International Cooperation Agency (JICA), and will serve as the coordinator of today's panel discussion. We have invited representatives of two African grassroots-level groups from Ethiopia and Rwanda to this discussion. The objectives of this session are for us, inclusive of members of our citizenry, to consider good practices of women's entrepreneurship development and economic empowerment and how they contribute to the family's wellbeing and to regional development.

アフリカでも、日本と同様多くの女性が働いています。本日は、アフリカ開発銀行のジェンダー担当者にもパネリストとして参加いただき、アフリカ全体の女性の経済的エンパワメントには何が課題なのか、話合います。林文子市長には、横浜・日本の状況について情報を提供していただきます。

Many women are working in Africa, just the same as in Japan. Today, we also welcome a panelist from the African Development Bank to discuss what issues must be faced to promote the economic empowerment of all African women. Furthermore, Ms. Fumiko Hayashi, mayor of the City of Yokohama, will share with us some information on the situation in Yokohama and Japan.

最近、企業だけでなく個人的にアフリカで事業をしよう、アフリカの発展に、ボランティア活動や NGO を通じて関わりたいという日本人も増えています。このような機会を通じて、協力の輪を広げていくことが本日の目的です。

Lately, an increasing number of ordinary Japanese people, not only companies, are showing interest in doing business in Africa or being involved in the development of Africa as individuals through volunteer activities or NGOs. We hope that today's discussion will be an opportunity to expand the networks of such cooperation.



## 田中 由美子 (Ms. Yumiko Tanaka)

国際協力機構 (JICA) 国際協力専門員 (ジェンダーと開発)。JICA 以前は、国連工業開発機関 (UNIDO) 及びバンコクにある国連アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP) でアジアの女性問題に取り組む。JICA では、ネパール森林保全計画のジェンダー専門家、社会開発協力部長、JICA タイ事務所シニア地域アドバイザーなどを務める。様々な JICA プロジェクトを通じて、アジアやアフリカ諸国でジェンダー主流化、女性のエンパワーメント、女性と子どもの人身取引対策などに取り組む。マニラにあるアジア開発銀行 (ADB) のジェンダー外部フォーラム委員も務める。

**Yumiko Tanaka** is the senior advisor on Gender and Development at the Japan International Cooperation Agency (JICA). Before joining the JICA, she held positions with UNIDO and the Social Development Division of UNESCAP in Bangkok, where she worked on the issues facing women in Asia. She has served as the gender expert for JICA's forestry conservation project in Nepal, the managing director for JICA's Social Development Cooperation Department, and senior regional advisor for monitoring/evaluation in the JICA Thailand Office. She formulated and supervised various JICA projects on gender mainstreaming, women's economic empowerment and anti-trafficking of women and children in Asian and African countries. She is a member of the External Forum on Gender for the Asian Development Bank.

田中)

では最初に、エチオピアのミツラルさんにお話を聞きたいと思います。

エチオピアはアフリカで2番目に人口が多い国です。ただし、エチオピアでは労働人口の約8割は農業従事者で、ほとんどが零細農家です。そのため、貧困ライン以下の人口が多く、「アフリカの角」とよばれる国々で、2011年に発生した大干ばつにより食糧危機も起きています。農村世帯の約20%は女性世帯つまり、女性が稼ぎ手の家庭で「さらに貧しい」といわれています。このような状況で、農村女性の生活を改善するためにミツラルさんが立ち上げたのがソーシャル・カンパニー、「エコピア」です。この活動は、環境に優しいだけでなく貧しい農村女性のエンパワーメントにもつながっています。では、ミツラルさんから、どのように女性のためのビジネス・モデルが成功したのかを聞きましょう。

Let me start with a presentation by Dr. Mitslal Kifleyesus-Matschie from Ethiopia. Ethiopia has the second largest population in Africa. About eighty percent of the Ethiopian workforce engages in agriculture, mainly in subsistence farming. Therefore, most of them live below the poverty line. In addition, people in the countries in the Horn of Africa suffered from a food crisis that was brought about by the severe drought of 2011. Moreover, about twenty percent of households in the agricultural district are headed by women and are leading much poorer lives than other households. Under such circumstances, Dr. Mitslal Kifleyesus-Matschie, in cooperation with other partners, founded Ecopia, a social company, with the aim of improving the lives of people in farming villages. The activities of Ecopia help to promote the empowerment of women in poor farming villages as well as contributing to the environment. I would now like to let Dr. Mitslal Kifleyesus-Matschie give us her talk on how business models for women have worked successfully.

## 2. ミツラル・キフレユスス・マチ [エコロジカル プロダクツ オブ エチオピア (Ecopia) CEO ]

### 2. Dr. Mitslal Kifleyesus-Matschie, CEO, Ecological Products of Ethiopia (ECOPIA)

来日できたことを大変うれしく思っています。本日は、17,000人のエチオピアの有機農家の代表としてきました。そうした人々の活躍・努力があって、いま、私たちは貧困から脱しようとしています

I am very happy to be here in Japan today on behalf of 17,000 organic farmers in Ethiopia. Owing to their activities and efforts, we are working our way out of poverty.

日本に来てわかったことは「文化と産業は共存でき、その融合が可能である」ということです。

私は、エチオピアで生まれ、ヨーロッパで学び、再び故郷に戻りました。自分の力で祖国の貧困をなくしたいと思ったからです。開発・経済のパートナーであるJICAとともに、知識、資金、可能性を高め、投資をして、16世紀のエチオピアから21世紀にふさわしい国に変えていくことが私の願いです。





One of the things I have realized since coming to Japan is that culture and industry can coexist with each other and can be integrated.

I was born in Ethiopia, studied in Europe and then returned to Ethiopia because I wanted to eliminate poverty in my home country. My desire is to transform Ethiopia from the 16th century where it is now into a country of the 21st century through the investment of knowledge, money, possibilities and other resources in cooperation with the JICA, which is our development and economic partner.

どのように私たちがスタートし、何を得られたのかお話ししたいと思います。従業員の3人に2人、そして提携している農家全てが女性です。なぜ、有機農家か。そもそも肥料を買えなかったためということもありますが、それだけではありません。有機農産物は、栽培方法が難しかったため、自然資源を守ることができたのです。

I would like to talk about how we started out and what we have gained from our business. Two-thirds of our employees and all our contracted farmers are women. Why organic farmers? Partly it was because we could not even afford fertilizer, but it was more than that. It was because they organic farm products, although difficult to cultivate, can protect natural resources.

今、現在、エコピアがマーケットとしている欧米の人々はオーガニック商品が大好きです。例えば、今日売り込みたいのは、高品質のオーガニック石けんです。横浜のホテルでも使っていただきたいですね。有名ブランドに負けない香水もつくっています。私たちは女性なので、食べ物に着目し、有機農産物を栽培することで所得を得ようとしてきました。

The Western people whom Ecopia is currently marketing to love organic products. Therefore, today I would like to promote, for instance, our high quality organic soap. I would like to see the hotels in Yokohama use this soap. We also produce perfume, which is competitive enough with the ones produced by the large brand name companies. Since we are women, we have focused our attention on food and tried to generate income through producing organic farm products.

エチオピアの産業のうち、30%は農業です。私たちは、生きていくだけでなく、よい意味で豊かな生活を目指しています。まずは、私たちがどのようにビジネスをスタートしたのか、どのような事業をしているのかを映像で紹介いたします。

Agriculture constitutes about thirty percent of the entire industry in Ethiopia. Our aim is not just to live at subsistence level but to actually realize enriched lives. I would like to show you some pictures of how we started out and what sort of business we are engaged in now.



### Video

マンゴー、パパイア、リンゴなど、さまざまな果物がアジスアベバにある工場で加工されています。環境に配慮したルールにのっとり、30人以上の職員が、果実を保存・加工しています。聴覚障害者も働いています。社会から疎外されている、不利な状況にいる人たちにチャンスを与えることがこの会社の目標です。

Mango, papaya, apples and many other fruits are processed at the processing plant of Ecopia in Addis Ababa. More than thirty employees preserve and process fruits in accordance with environmentally-friendly rules. We also have hearing-impaired employees working here. The aim of this company is to offer opportunities to underprivileged people who are alienated from society.

エコピアは4年前に設立されました。私たちはまず、有機農家にトレーニングの機会を提供することで、競争力を持てるようにします。トレーニングでは、作物の収量を増やす方法や収穫後の果実の加工方法を学びます。ジャムやゼリーなど、果物を使ってできるものを加工しています。これにより、収穫量の最適化を図り、食糧を確保しながら、所得を生み出します。

Ecopia was founded four years ago. We begin by providing opportunities for training to organic farmers in order to make them competitive. The training teaches them how to increase yields and to process harvested fruits. We process these to make jam, jelly and many other products available. In this way, we try to optimize our harvests, participate in food security and generate income.

エコピアは社会的にも、生態学的にも「環境」に強くコミットした会社です。種まきから最終製品まで、殺虫剤、肥料・食品添加物など有害なものは使わず、100%天然です。人々を癒し、元気を与えます。

Ecopia is strongly committed to the environment socially and ecologically. We do not use any harmful materials for insecticides, fertilizers or food additives, the entire production process from the seeding to the final products is 100% natural. They make people healthier and give them more vitality.

また、世界保健機構（WHO）などの規則にのっとった商品説明をしています。将来は国際的に認められた有機食品の認証も得る方針です。

We also label our products in compliance with the regulations of the World Health Organization (WHO) and other organizations. We are planning to obtain internationally-recognized organic food certification in the future.

現在も、一つひとつの産品にトレーサビリティが確立されています。ウェブベースの生産管理システムを使って、顧客は、どこの誰が作った商品なのかをさかのぼれるようにすることで、最高の透明性を確保しています。

Ecopia has established a traceability system for each product. Our web-based production management system enables our customers to trace where and by whom the product was made, ensuring the highest degree of transparency.

エコピアは、16 世紀と 21 世紀の橋渡しをします。エチオピア人の大半は、技術的にも物質的にもまだ 16 世紀の状態です。21 世紀にふさわしい素敵な商品を開発するために、私たちは農家をサポートし、飛躍してもらいたいと思っています。農家の女性たちは、自分の土地で、環境生態系に優しい、有機的な生産活動が可能になるのです。

Ecopia bridges the gap between Ethiopia of the 16th century and of the 21st century. Most Ethiopians still remain in 16th century conditions technologically and materially. With the aim of developing wonderful products suited to the 21st century, we are extending assistance to farmers in the hope of helping them become more active. Our support will enable female farmers to produce environmentally-friendly and organic products on their own farmland.

「ピュア ジョイ オブ ネイチャー」 (Pure Joy of Nature)  
自然からの純粋な喜び・恵み。これがエコピアのコンセプトです。

The "Pure Joy of Nature" is the concept behind Ecopia.

エコピアは、アフリカ地域で初めての有機食品メーカーです。需要は高く、エチオピアのほとんどの大きなスーパーに、エコピアの商品があります。私たちは、有機農産物によって所得を生み出します。例えば、マンゴー一つで、いろいろな製品ラインがうまれます。ジャムを作り、種子でスクラブを創る。オイルを採り、石けんをつくる。ハーブからは薬も作ります。

Ecopia is the first organic food maker in Africa. We enjoy high demand for our products, and in fact, most of the large supermarkets in Ethiopia sell Ecopia products. We generate income through organic farm products. For instance, just with mangoes we have developed an extensive product line such as jams, scrubs made of mango seeds, oil and soap. We also produce medicine using herbs.

会社の哲学として、利潤は地元にも再投資しています。私たちは、取引先農家とともに新しい会社を興しています。

Based on the philosophy of our company, we reinvest our returns into local business. We are starting new companies with the farmers who are our business partners.

日本のみなさん。食べ物も水も不足した「貧しい国」というエチオピアのイメージを変えてください。これまで、マンゴーが豊かに実る森があるのに、誰も加工できなかっただけです。今は、そこから、GDPの10%を生み出している人たちがいます。

We want the Japanese people to change their image of Ethiopia as a poor country lacking food and water. Ethiopia is blessed with rich mango forests, but up until now nobody could process them. Now Ethiopians generate ten percent of their GDP through the mango forests.

今後の創業者として私の仕事は、「農家に資金を提供する」ことです。JICAは、一村一品運動で素晴らしいプロジェクトを担ってくれました。これは素晴らしいメリットがあります。エコピアは今後も、製品をつくり、サービスを提供し、資本を提供する会社として協働パートナーを求めています。日本の方々もオーガニックが大好きですね。エコピアの商品を試したい、アフリカの女性農家を支援したい人は、私の名刺をどうぞ、持って行って下さい。ぜひ連携していきましょう。

My next task as the founder of Ecopia is to provide funds to farmers. JICA was involved in an excellent project through the One Village One Product Program. This project brought tremendous benefits. Ecopia is looking for business partners who can help us to make products, provide services and contribute capital. I know that the Japanese people love organic products. Please take my business card if any of you want to try Ecopia products or support female farmers in Africa. Let us work together in the future.



### ミツラル・キフレユス・マチ (Dr. Mitslall Kifleyesus-Matschie)

有機食品・化粧品、生薬の生産、加工、販売のバリューチェーン（価値連鎖）をエチオピアとヨーロッパで総合的に経営するソーシャル・カンパニー「エコロジカル・プロダクツ・オブ・エチオピア（ECOPIA）」の設立者であり最高責任者を務める。国際機関や各国政府の政策や戦略実施に関するアドバイザーや国際・ヨーロッパ問題のビジネス展開のためのコンサルティング会社のマネージャーとしても活躍。

[www.ecopia.de](http://www.ecopia.de)

**Mitslall Kifleyesus-Matschie** is the CEO and Founder of Ecological Products of Ethiopia (Ecopia), which is a social company that orchestrates the value chain of organic food, cosmetics and herbal medicine production, processing and marketing in Ethiopia and in Europe. Her experience includes acting as an adviser for international organizations and governments in policy and strategy implementation, and as the manager of a strategic consulting company for business development in International and European Affairs.

田中)

では次にルワンダからいらしたオディレさんにお話しいただきます。ルワンダは、1994年に民族紛争が勃発し、その犠牲者は80万～100万人とも言われています。女性たちは家族や多くの友人を亡くし、心に大きな傷を負いました。夫を亡くした女性や孤児もたくさんいました。仕事もなく経済的にも苦しい状態が続きましたが、女性たちは太鼓のグループを作ることによって元気を取り戻し、ルワンダで初めてのアイスクリームショップを開店しました。オディレさんは、その中心人物として活躍してきました。私は、YouTubeでその活動を拝見し、大変感動いたしました。本日は直接そのお話を伺えるということで、大変楽しみにしています。(では、まず、短い映像で、その活動についてご紹介いただきたいと思います。)では、オディレさんよろしくお願いいたします。

Tanaka: Next, a speech by Ms. Odile Gakire Katese from Rwanda. Ethnic conflict erupted in the form of genocide in Rwanda in 1994, and it is said that the victims number between 800,000 and 1,000,000. Women in Rwanda lost their families and friends which left them with large gaping wounds to their hearts. Many women lost their spouse, and many children were left orphaned. It was a hard struggle to survive without a job in poor economic circumstances. But these women recovered their energy by creating a drum group, and opened the first ice cream shop in Rwanda. Odile has been a centrally active member of this group. It was an emotional moment when I saw the group's activities on YouTube. I am very much looking forward to actually hearing her in person today. (Now, a short introduction video on her group's activities.) Ms. Odile, please.

### 3. オディレ・ガチレ・カテセ 3. Ms. Odile Gakire Katese

私たちの活動を紹介する映像をまず、ごらん下さい。

First, I would like to show you a video to introduce our activities.



#### Video

「ルワンダは最悪の虐殺を1994年に経験したのです。  
驚くべき状況でした。でも女性たちが変化をもたらしています。  
インゴマ・ニシャ…「新しい太鼓」と同時に「新しい王国」を意味する言葉です。

We experienced the dreadful Rwandan genocide in 1994. It was such a terrible time. Despite this tragedy, women have started to make changes. "Ingoma Nshya" means "new drums," and at the same time, a "new kingdom."

わたしたちは、ルワンダの歴史に新しい一章・時代を提案したかったのです。

孤児も、夫を亡くした女性も犯罪者の子もいます。

私たちは人々に安全と感じられるスペースを提供したかったのです。

特に女性は場所も、チャンスも与えられませんでした。

その女性たちがチャンスを手にするのが「インゴマ・ニシャ」です。

We wanted to propose a new era in the history of Rwanda. We employ orphans, widows and the children of criminals. We founded Ingoma Nshya in hope of offering a space where people can feel safety. This is especially true for women had no place and no chances. It is Ingoma Nshya that offers chances to women.

そして「和解」というのは二人の人間の間のことだけではありません。人々は自分自身と、幸せと人生と和解をしなければなりません。

“Amicable settlement” does not just mean reconciliation between two people. It also needs to be reached within oneself, one's happiness and life.

2009年、オディレはNYのブルックリン・ブルーマーブル・アイスクリームの幹部に「ルワンダ初の地元のアイスクリームショップ創業の支援してほしい」と頼んだのです。

In 2009, I asked the executives of the Blue Marble Ice Cream in Brooklyn, New York to support the opening of the first local ice cream shop in Rwanda.

子どものころ、私たちは欲しいものがあっても、すぐに手に入れることはできませんでした。努力をしなければいけないのです。努力はとても重要です。「何かが可能だ」と信じたら、それは「できている」も同然なのです。

In our childhood, we could not easily obtain what we wanted. We had to make an effort to get it. Effort is very important. Moreover, if you believe that you can do something, it means that you are ready to reach that goal.





私たちがもし何かを売ろうと思ったら「楽しく、幸せなものでないといけない」と思っていました。私たちは、インフラから国を作り上げなければなりませんでしたが、でも、アーティストとしての私が貢献できることは「人をつくる」ということ、そして「プロとして夢をみる」ということでした。

If we sell something, it should be a product that entertains people and makes them happy. We had to start with developing infrastructure to build up our country. What I could do as an artist was to “develop people” and to have a dream as a professional artist.

ルワンダでは、大虐殺以前、女性は母親として生きるしかありませんでした。私は、母親には、人間を育てるプロとしての母親になってほしいと思いました。1994年の悲劇を経て、私たちは母として、姉妹として、人として素晴らしい人たちになろうと思いました。われわれ、女性は男性の同胞として、ともに立派な人間をつくりあげるという役割があるのです。このため、女性が母として、その準備を整えることが大切だと思いました。

Before the Rwandan genocide, women in Rwanda had no choice but to live as a mother. I wanted to make mothers into professionals who commit to the nurture of people in a very real sense. After our experience in the genocide in 1994, we decided to become wonderful people as mothers, sisters and individuals. Women are compatriots for men and need to work together with men to foster admirable human beings. Therefore, I believe it is important for women to prepare themselves to be mothers in order to take their parts.

けれども、女性の役割を果たしているだけでは教育や仕事の機会は得にくいのです。そこで、私たちは雇用を生み出すことを考えました。

However, women's roles alone cannot provide enough opportunities for education or work. Therefore, we decided to create employment.

ルワンダでは大虐殺の後、男女の構成比が崩れました。多くの男性の命が失われ、人口の75%が女性になり、女性が国を再建しなければなりませんでしたが、女性たちは、それを選択したわけではなく、準備が整ってなくてもなんでもやらなければなりませんでしたが。2003年、国会議員の48.8%が女性になりました。さらに2008年には、世界で初めて全国会議員のうち、女性が占める割合が半数を超え、56%に達しました。

The genocide in Rwanda brought about a large gender imbalance. Many men's lives were lost in the



genocide, which increased the women's share among the entire population up to 75%. This forced women to rebuild the country, even if they were not ready to do so. In 2003, 48.8% of the Diet members were represented by women. In 2008, the women's ratio reached more than half at 56% for the first time in the world.

こうした社会状況を背景に、2004年「インゴマ・ニシャ」は結成されました。ルワンダでは、昔「女性は太鼓をたたく」ことが許されていませんでした。その行為が権力を意味していたからです。

Under such social circumstances, Ingoma Nshya was founded. In Rwanda, women were not allowed to “beat the drum” in the past because the act of beating the drum itself represented power.

「インゴマ・ニシャ」というのは「新しい王国」を意味しています。女性がドラムをたたくことは、新しい文化的役割を獲得したことを象徴しています。そのパフォーマンスそのものが、女性に凄惨な出来事から立ち直る力と自信を与え、それがまた、ルワンダ発展の原動力になってきたのです。

“Ingoma Nshya” means a “new kingdom.” Now, women can beat the drum, which symbolizes that women have acquired a new cultural role. Such a performance itself gave women power and a sense of confidence to bounce back from the appalling incident that had happened on their own, contributing to creating the driving force for the development of Rwanda.

女性たちがたたくドラムとアイスクリーム。この2つは、今までのルワンダにはない全く異質の文化です。けれども、このアイスクリームショップのプロジェクト「Inzozu Nziza = 甘い夢」というのは、大切な夢です。

Women playing the drums and ice cream. For Rwanda, these are both totally new cultures. But the “Inzozu Nziza Sweet Dreams” project for this ice cream shop is a vital one.

「なぜ、途上国でアイスクリームなのか」という疑問もあるでしょう。それはなぜか？ルワンダはコントラストを持つ国、経済の発展と大虐殺というトラウマの2つの面がある国です。

You may wonder why we started an ice cream shop in a developing country. Why did we do this? Rwanda is a country facing two very different aspects, that of economic development and the trauma of the genocide.

ルワンダは、物質的な豊かさだけを追求する従来型の開発だけでは幸せになれません。人々の精神を高める努力が大切で、モノだけでは満たされません。女性たちは「栄養ある食べ物も必要だが喜びや娯楽、笑いがいい」と言います。それは人生にとって、重要な要素だからです。ルワンダでは生き残る手段だけでなく、暮らしの中に喜び・希望、以前は想像できなかったような可能性を「再び抱くことができる」という思いが重要です。

Therefore, conventional development in pursuit of material wealth alone cannot make the people of Rwanda happy. It is important for us to make an effort to foster a sense of spiritual wellbeing because material satisfaction is not enough for us. Women say that joy, pleasure and laughter, along with nutritious food, are essential for their lives. It is significant that the people in Rwanda can feel once again hitherto unimagined possibility of having joy and hope in their daily lives, instead of simply focusing only on how to survive.

わたしたちが運営する店舗は、酪農が盛んなルワンダで、初のアイスクリームショップでした。これまでにない事業でしたが、わたしたちはアイスクリーム製造と販売事業を持続しています。寡婦や孤児など、社会的に立場の弱い人々に雇用を生み出しています。

Dairy farming has been a thriving industry in Rwanda, but the ice cream shop we are operating is the first one in this country. We are continuing to produce and sell ice cream even though it is a totally new business in our country. Through our business, we are creating employment for widows, orphans and the vulnerable members of society.



### オディレ・ガチレ・カテセ (Ms. Odile Gakire Katese)

ルワンダ初のアイスクリームショップである女性グループ「Inzozu Nziza (「甘い夢」の意味。)」の代表者。同グループはアイスクリームと起業家精神のパワーを通じて、人々に幸せと繁栄をもたらすことを目的としている。これに先立ち、ルワンダ国立大学芸術・演劇大学研究所の副理事であった。さらに、2004年にルワンダで初の女性ドラムグループ「Ingoma Nshya / Women Initiatives」を創設した。現在は「ルワンダ プロフェッショナルドリーマーズ」の創立責任者を務める。

[www.professionaldreamers.rw](http://www.professionaldreamers.rw)

**Odile Gakire Katese** is the representative of women's group Inzozu Nziza (which means "Sweet Dreams"), which is the first ice cream shop in Rwanda. The group aims to bring happiness and prosperity to people through the power of ice cream and entrepreneurship. Prior to this, she was deputy director of the University Center for Arts and Drama of the National University of Rwanda. She also created Rwanda's first-ever women's drumming group, called Ingoma Nshya / Women Initiatives, in 2004. Now she is the founding director of Rwanda Professional Dreamers.

田中)

ヨーマンさんはアフリカ開発銀行でジェンダーと社会開発部長をされています。アフリカ開発銀行は、アフリカ諸国への融資やその他の支援を通じ、貧困削減と社会開発を進めている組織です。ヨーマンさんからは、アフリカ女性全体の経済的エンパワメントの課題と支援策について話をうかがいます。

Tanaka: Ms. Yoman is the manager of the Gender and Social Development Monitoring Division of the African Development Bank. This bank promotes poverty reduction and social development through extending loans and other forms of cooperation. Ms. Yoman will share with us issues concerning economic empowerment and support measures for all women in Africa.

#### 4. ジネット・ウスレ・ヨーマン (アフリカ開発銀行・ジェンダーと社会開発部長) 4. Ms. Ginette-Ursule Yoman (Manager, Gender and Social Development Monitoring Division, African Development Bank)

日本がアフリカと強く連携し、活発な活動していることに感謝しています。

本日は、アフリカのジェンダー平等の状況についてお話したいと思います。さらに女性の経済的なチャレンジを進めていくために、女性は色々な課題に直面しています。アフリカ開発銀行としては、我々の今までの成果、重要な役割に対し、私たちが活動してきたことを誇りに思っています。

I would like to express my gratitude to Japan's strong partnership with Africa and its active involvement in the projects to support Africa. Today, I would like to talk about the status of gender equality in Africa. My presentation also covers the various issues that we face in making further progress regarding economic challenges to women. As a member of the African Development Bank, I am very proud of our achievements and the efforts we have made so far as part of our vital roles.



アフリカの経済は発展していますが、ジェンダーの不平等は続いています。経済成長は、必ずしも大きなジェンダー不平等是正にはつながっていません。政府と開発パートナーは、もっと力を不平等是正に注ぎ、経済成長が、男女間の格差をなくしていくようコントロールしていかななくてはなりません。

Despite the growing African economy, gender inequality still continues in Africa. Economic development does not necessarily help to improve the wide gender disparities. Therefore, governments and development partners should focus more on redressing inequality and managing economic development in order to eliminate gender disparities.

これは、人権の問題であり、経済成長をさらに加速させるため、私たちが改善していかなければならないのは明らかです。

What we are talking about here is a human rights-related issue, which we definitely have to address in order to accelerate further growth.

女性の法的な立場は弱く、労働者としての地位が低いため、改善を働きかけて生産性を高めていかなければなりません。アフリカ女性の経済的課題としては、残念ながら非正規雇用が多く、賃金獲得の機会が少ないなどの差別があります。女性が教育機会を得にくい環境も影響しています。

Because women are vulnerable legally and have low status as workers, we must improve their position and lift their productivity. The economic issues facing African women are the unfortunately high number of women irregularly employed and the few opportunities to gain funds. In addition, women are having a hard time in receiving education.

もう一点、女性の起業の制約になっているのは、資金調達の難しさです。多くの女性は、雇用機会が少ないため、自営業になる可能性が高いのですが、信用、つまり貸付が得られないことがあるため、実際には、女性は、生産性を高めることができていません。

Moreover, the difficulties women face in raising funds hinders them from starting up new businesses. Many women are self-employed because of the lack of employment opportunities. However, it is hard for self-employed people to earn trust and to get loans, so in actual fact the productivity of women cannot be raised.

アフリカでは、「国連女性差別撤廃条約（CEDAW）」に批准・署名していても、実際に国内法が整備されておらず、コミットメントできていない国があります。こうした国では、多くの女性のための権利行使ができない状況です。

Some the African nations, despite having ratified and signed the Convention to Eliminate All Forms of Discrimination Against Women, have not shown a commitment to actually forming laws within their countries. Many women in such countries cannot exercise their rights.

それでは、アフリカ開発銀行ではどんなことをしているのでしょうか？

So what is the African Development Bank intending to do in order to settle this issue?

私たちは、女性の社会進出を促進する 10 年戦略を始めています。今後 10 年間で、重要な 3 つの分野を改善していこうとしています。

それは、ジェンダー平等、食糧の安全保障、女性に対する資金提供の 3 点です。特に、ジェンダー不平等の是正に関しては、国際的なコミットメントを確認し合意をとって、加盟国の法律をしっかりと定めていく方向で動いていきます。

We have started a ten-year strategy, aiming at improving the three important areas of gender equality, food security and funding for women, in the ten years to come. Concerning gender disparity, in particular, we have confirmed and made agreements on international commitment for it and are working to firmly establish relevant laws in the member countries.

次に、私たちは、アフリカの女性起業家に資金を提供します。様々な先行事例を検証し、パイロット活動を進めながら、持続可能な資金を提供していくことで、10 年後の発展を期待しています。

Our activities also include funding for female entrepreneurs in Africa. We review various prior cases, carry out pilot projects and provide sustainable financial support, looking ahead to development in ten years' time.



## ジネット・ウスレ・ヨーマン (Ms. Ginette-Ursule Yoman)

アフリカ開発銀行のジェンダー及び社会開発モニタリング部マネジャー。アフリカ開発銀行での勤務以前には、コートジボワール首相の経済問題・ガバナンス担当特別顧問としての経歴があり、2006年にはコートジボワール政府グッドガバナンス担当国務大臣を務め、アフリカ能力開発基金取締役委員会の取締役でもあった。フランスのクレルモンフェラン大学国際開発調査研究センター(CERDI)、ロンドンのアダム・スミス研究所、シンガポールの公務員大学、フランスのフォンテーヌブローにある経営大学院インシアード(INSEAD)を卒業した開発エコノミストである。

[www.afdb.org](http://www.afdb.org)

**Ginette-Ursule Yoman** is division manager of the Gender and Social Development Monitoring Division, of the African Development Bank. Previously she made her career in the Ivorian senior civil service as Special Advisor to the Prime Minister of Côte d'Ivoire, in charge of economic affairs and governance. She entered the Ivorian Government in 2006 as Secretary of State in charge of good governance. She also has been a member of the board of directors of the Foundation for Capacity Building in Africa. Ms. Yoman is a development economist who graduated from the Center for Studies and Research on International Development (CERDI), the University of Clermont Ferrand in France, the Adam Smith Institute in London, the Civil Service College of Singapore and INSEAD in Fontainebleau, France.

田中)

アフリカの女性の状況、アフリカ開発銀行の施策などについて、パネリストの方々にお話いただきました。では次に林文子横浜市長からは、3人のお話を聞いての感想、日本における女性起業家支援の現状と成功例についてお話していただきます。

Tanaka: So far, the panelists gave us presentations about status of women throughout Africa and the measures taken by the African Development Bank. Now, I would like Ms. Fumiko Hayashi, Mayor of the City of Yokohama to share her impression on the presentations by these three panelists along with the present status of and successful projects concerning support for female entrepreneurs in Japan.

## 5. 林文子

### 5. Ms. Fumiko Hayashi

感動で胸がいっぱいです。勇気を与えていただきました。

ミツラルさん、オディレさんのお二人とも「文化と産業が融合・両立するのだ」という考え方に共感されたようでしたね。

I am deeply impressed and encouraged to hear the presentations. Both Dr. Mitslal and Ms. Odile share the same view that culture and industry can be integrated and compatible with each other.



市長として日々感じるのは、往々にして男性優位だと、経済合理性のなかで文化芸術が傍らに押しやられるということです。

My daily work as mayor reminds me that a male-dominated society usually focuses on economic rationality and puts little emphasis on culture and art.

ところが女性は、文化・芸術・歴史というソフトをベースに経済合理性をビジネスにしていく感性を持っている。受容力・包容力は女性の強みだとおもいます。

On the other hand, women have the sensibility to develop businesses in an economically rational way, leveraging fields such as culture, art and history. I believe that receptivity and broad-mindedness are the strengths of women.

日本の場合、雇用の機会が少ないアフリカとは事情が異なります。働こうと思えば場所はある。しかし、志をもって、働き続けたいと思っても、キャリアをつなげることはできない。

The situation in Japan may be different from that in Africa, where there are few employment opportunities. In Japan, women have a chance to work if they want to, but face difficulties in continuing their carrier even if they have a strong will to do so.



日本女性は、子育て中にリタイアしなければならないため、女性の労働力率を年齢別に表すグラフでは、出産や子育ての時期にあたる 35 歳から 39 歳の労働力率が低くなる、いわゆる M 字カーブが先進国の中ではとても深くなる。組織で働くことを前提としながら、多様な働き方を選べるのはいいことだが、持続的に自分の思いをつなげていく働き方がどうしてもできない状況では、起業という道を選ぶのも素晴らしいことだと思います。

Japanese women are forced to quit their jobs to take care of their children, giving Japan the severest M-shaped curve among the developed countries for the childbearing years of 35 to 39 on graphs showing women's labor force by age bracket. It may be beneficial to Japanese women that various work styles are available for them, but in the situation where they are unable to continue to work in ways matching what they want to do, taking the route of starting up a business should be very attractive for Japanese women.

日本でも生活の中で、いろいろなヒントや知恵を身につけていく。そこから起業する人は多いです。

In Japan too many people set up businesses taking advantage of the clues and knowledge that they have found or acquired in their daily lives.

男性は将来どうか、と先々を気にしますが、女性は、規模は小さいものの、暮らしの中で必要であると思うとためらわず起業していくという実行力があります。横浜市としてはご自身の気持ちをかなえる起業を成功させる支援を行っていきたい。

Whereas males tend to be cautious or concerned about the future, females have the ability to start up a business, even if a small one, without hesitation if they find something necessary in their everyday life. As the mayor of Yokohama, I want to support women who intend to establish a business in order to realize their determination.

ヨーマンさんのお話では、アフリカ女性の起業の現場で「融資が受けられない」という指摘が印象的でした。横浜市では女性起業家に特別な融資枠を設けて支援をしています。

Ms. Yoman pointed out in her presentation that African women cannot easily raise funds to start up a business, which caught my attention. The City of Yokohama has special reserves in its budget to support women entrepreneurs.

田中)

日本でもアフリカでも女性はパワフルに活動しているが、課題もあることが分かりました。アフリカにおいて、経済活動する意義と挑戦について、それぞれのパネリストに再度おうかがいします。起業成功のカギは？乗り越えていくべき新しい課題はなんでしょうか？

Tanaka: We have seen that women both in Japan and Africa are working actively but face various problems at the same time. I would like to ask each panelist again about the sense of meaning and the challenges involved in conducting economic activities in Africa. What are the keys to success, and what new issues need to be overcome in starting up a new business?

ミツラル)

横浜では女性起業家の支援が充実しているとのこと、大変うれしく思います。エコピアの横浜支店設置を考えたいくらいです。エチオピアの企業が、横浜でも起業できればと思います。

Mitslal: I am happy to hear that the City of Yokohama offers support for female entrepreneurs. I am going to consider the possibility of opening an Ecopia branch in Yokohama. It would be great if we could start up a business here.

まず、成功の秘訣ということですが、私は「よき聞き手」であると思います。

さまざまなステークホルダーの話をききます。わたしはシングルマザーなのですが、子ども2人を連れて村の農家の話を聞きにいき、作業に参加もしています。すべての問題を解決できるわけではありませんが、テントで生活をともにしながら、みんなの話を耳を傾けます。

First of all, I believe that being a good listener is one of the keys to success. I try to listen to the various stakeholders. Since I am a single mother, I often bring my two children with me when visiting the farmers to listen to their stories and to participate in agricultural work together. Though I cannot solve all the problems, I try to listen to the stories of the farmers while camping out together.

それから忍耐強さも必要です。何か壁にぶつかったときに、あきらめない忍耐強さが大切です。なにか壁にぶつかると二歩後退し、つぎに五歩進んで継続していくこと。起業すれば、2回は失敗するもの、とわたしたちの国では言われています。

Patience is also essential to success. It is important to be patient and never give up whenever you face a difficulty. If you encounter a problem, you should take two steps backward, and then move five steps forward and continue what you are trying to accomplish. In our country, it is often said that everyone fails at least twice in establishing a new business.

それから、パートナーシップも大切ですね。若い人たちだけでは仕事はできません。高齢者にも参加してもらい、全てを取り込む。それが成功の秘訣だと思っています。

Furthermore, partnership is also critical. Young people alone cannot accomplish anything by themselves. It is important to gain the involvement of older people in tackling anything. I believe this is a key to success.

今後のチャレンジですが、私は女性に資金を提供できるような、ベンチャーキャピタルを構想しています。

With regard to the challenges for the future, I am working on an idea of establishing venture capital to provide funding to women.

それから教育にも力をいれたい。また、貿易のあり方については、西洋の国々に改善してもらいたいことがあります。エチオピアで加工した商品を取引できるように動いていきたいのです。そして、みなさんに、エチオピアの素晴らしさを知ってもらいたいと思っています。

In addition, I would like to strengthen education. I also would like Western countries to take a different approach to trading. They should work to make it possible to trade products processed in Ethiopia so that everyone can understand the greatness of Ethiopia.

オディレ)

そもそもわたしたちはビジネスの世界で働くことが目的で事業を始めたわけではありませんでした。

ドラマーとして、アーティストとしての活動続けるために、アイスクリームの製造・販売事業を始めたのです。

わたしたちの成功の秘訣は、アメリカのアイスクリームショップで経営と接客のトレーニングを受けたことです。

Odile: We started to produce and sell ice cream in order to continue our activities as drummers or artists rather than working in the business world. We are successfully doing our business because we received training for management and how to serve customers at the ice cream shop in the USA.

私たちには、ルワンダで女性が太鼓をたたくという不可能なことを成し遂げました。そのような経緯があり、この事業をやり遂げる自信を持ちました。「それは可能だ」と信じ、始めたらそれは成功へのスタートです。たとえ失敗しても大丈夫、また頑張ればいいのです。たとえ2年しか続かなかったとしても、やる価値があることであれば、次に続く誰かが受け継いでいくことでしょう。ですからまず「行動すること」が大切です。

In Rwanda, women were not allowed to play the drum, but we achieved the impossible. That made us confident that we could successfully do this business. If you believe that you can do something and actually start it, you are almost ready to reach the goal. Never mind if you fail in it. You can try it again. If it lasts only for two years, somebody will take it over if it is worth doing. Therefore, it is important that you start doing something.

それからもう1つの成功のポイントは「価格戦略」です。アイスクリームは、貧しい人たちが簡単に手に入れられる商品ではないため、できるだけ多くの人が手に入れられるような価格を考えました。



Another key to success is a pricing strategy. Poor people cannot afford ice cream, so we set the price to make our products available to as many people as possible.

課題の一つは、製造するための設備投資ですね。安定した生産を可能にするために、2台目のアイスクリーム・マシンの購入や、原料となる良質な牛乳の調達などが必要でした。また、ルワンダでは「冷たい飲み物を飲まない」という文化があり、その習慣を乗り越えてアイスクリームを売っていくための仕掛けが必要でした。まずは店に来てもらう、食べてもらうためのコミュニケーションが重要だと考え、子どもが無料で食べられる日を設けるなど努力をして、市場を育ててきたことが、ビジネスの持続につながっています。

One of the issues facing us is related to capital investment for production. For the purpose of stable production, we had to purchase a second ice cream machine and procure high-quality milk as an ingredient.

Furthermore, Rwandan people conventionally do not have cold drinks. Thus, we needed a strategy to sell ice cream by overcoming such a custom. We decided accordingly that it was important to communicate with our potential customers to make them come to our shop and eat our product. Therefore, we developed the market through such things as setting aside days where children get ice cream for free. As a result of such efforts to develop the market, we can successfully continue our business.

## ヨーマン)

アフリカ開発銀行として、今後の経済的支援策について伝えるにあたって、我々の方針・体制についてまず、お伝えしましょう。

Yoman: First, I would like to talk about the policies and the systems for the future economic support scheme to be provided by the African Development Bank (AfDB).

私たちの組織運営は「開発を考える時、必ずジェンダーを中心に据える」という体制に大きくシフトチェンジしました。

具体的には、マネジャー（責任者）がいる「ジェンダー部門」が、アフリカ開発銀行で初めて設置されました。これは画期的なことです。

これは我々が関わる一つ一つのプロジェクトに「ジェンダー要素が入っていない＝ジェンダー主流化」という規準が公式の方針となったことを意味しています。また、今回のアフリカ開発会議では、「ジェンダー」を非常に重要視していることも考慮すべき点だと思います。

Our organizational management has drastically shifted toward a system that always puts gender mainstreaming at the center of any development project. More specifically, for the first time in the history of the African Development Bank a division specializing in gender, with a manager assigned to it, has been established. I believe this is an epoch-making event. This means that the African Development Bank has adopted a criterion of gender mainstreaming, namely of considering gender as a critical factor for each project, as an official policy. Similarly, TICAD places great emphasis on gender.

また、アフリカ開発銀行は今後、次の4点についてチャレンジしていきたいと考えています。

In addition, the African Development Bank intends to address four challenges as follows.

まず第1に、アドボカシー（政策提言）活動を強化していきます。私たちは「ジェンダーを軽視する国はチャンス을失っている」と考えています。ジェンダー重視は、フェミニズムや良識という観点ではなく、成長していくために必要な方策です。

First, we will strengthen advocacy activity (policy advocacy). I think that the countries that pay little attention to gender are missing out on various opportunities. Policies to emphasize gender are necessary for growth, not merely from the viewpoints of feminism or common sense.

これまでも、アフリカ開発会議のジェンダー・フォーラムなどを通じて、こうした方針を広く発信し、経験を分かち合ってきましたが、今後も政策提言していきます。

We have extensively communicated these policies and shared our experiences in TICAD's Gender Forums and other areas, and will continue to advocate such policies.

次に、具体的に進めていきたいのは「ガバナンス（統治）の改革」です。国際機関を巻き込み、アフリカ各国の国内法の整備を促しながらガバナンスを改革していきます。それは「条件づけ」ということにとどまらず、成功例を共有しながら、ある国がその制度を改革し、ガバナンス強化する際に、アフリカ開発銀行が資金面で支援します。

Next, we are eager to concretely promote governance reform. We will reform governance through involving international organizations and promoting the establishment of domestic laws. The aim of such reform is not restricted to simply setting terms and conditions. Instead, the African Development Bank intends to publicize successful cases while providing financial support to member countries that reform their systems and strengthen governance.

さらに、3点目のチャレンジですが、我々は「人間開発」（※注1）における公共政策の有用性を高めたいと考えています。特に、母子保健など「人々が、長寿で、健康かつ創造的な人生を享受するための環境を創成する」ための具体的な公共政策を、効果的に進めていくことが課題であると思っています。

The third challenge for the African Development Bank is to enhance the value of public policies for “Human Development”. (See Note 1) In particular, we need to effectively promote concrete public policies to create an enabling environment for people to enjoy long, healthy and creative lives, including policies concerning maternal and child health.

最後に、アフリカ開発銀行は全ての大陸に、事務所を設置し、優れた成功事例やアイデアを集めています。その実践的な知識を、アフリカの女性起業家にシェアしていきます。

Finally, our fourth challenge is to share with female African entrepreneurs the practical knowledge that the African Development Bank has obtained through collecting successful case studies and ideas at our offices which are based in every continent around the world.



田中)

包括的な取り組みについてのご報告をいただきまして、ありがとうございました。

Tanaka: Thank you very much for your report on such comprehensive activities and measures.

(注 1) 人間開発とは

国連開発計画 (UNDP) では、人間開発とは、「人々が各自の可能性を十全に開花させ、それぞれの必要と関心に  
応じて生産的かつ創造的な人生を開拓できるような環境を創出することです。人々こそがまさしく国家の富なのです。  
各々にとって価値ある人生を全うすることを人々に可能とする、選択肢の拡大こそが開発なのです」と定義している。

(出典： <http://www.undp.or.jp/hdr/>)

Note 1: About Human Development

The United Nations Development Programme (UNDP) defines Human Development as “The creation of an  
enabling environment for each individual to realize their full potential and to develop productive and creative lives  
in accordance with their own needs and interests. People are the real wealth of a nation. Development in essence  
is the expansion of the choices open to each person to enable them to live in ways that fulfill their own values.”

<http://www.undp.or.jp/hdr/>

田中)

では、林市長から横浜市の女性起業家への具体的な支援政策について再度、ご報告をお願いします。

Tanaka: Could you elaborate on the support measures for female entrepreneurs in Yokohama?

林市長)

市長として「横浜市中期 4 カ年計画」を策定した際、初めて女性の力を活用する政策を明確に打ち出しました。女性の起業支援で、最も必要とされたスタートアップオフィス「F-SUS よこはま」(横浜市中区)を 2011 年 6 月に開設しました。この施設は、月額 5000 円で利用することができ、商談スペースもあります。女性の中小企業診断士など 3 人の専門家が常駐し、個別に経営相談に対応します。関連施設も含め、2013 年 3 月までの約 2 年間に 25 人の女性が起業しています。

Hayashi: As the mayor, I worked out policies to use women's abilities for the first time when mapping out the Midterm Four Year Plan of the City of Yokohama. In June 2011, we launched F-SUS YOKOHAMA (Naka-ward, Yokohama City), which is a shared office for female entrepreneurs, as office space was deemed the main necessity in support for women starting up their own businesses. This office can be used for a monthly rental fee of 5,000 yen and includes as a space for business meetings. Three full-time specialists, including female small and medium enterprise management consultants, are always there to provide advice on an individual basis. Twenty five women started up a new business during over the approximately two year period up to May 2013 through using the services provided at this office or other related institutions.

また、資金調達については、横浜市の「創業ベンチャー促進資金制度」に、女性起業家支援枠を設けました。2013 年度から、有望なビジネスプランには事業化資金の助成も行っています。また、日本の働く女性たちの悩みはお手本となる『モデル』や相談相手が身近にいないことです。そこで、メンター制度導入しました。また、それぞれの能力やスキルの構築、リーダーシップ養成のために、ネットワークづくりの場を提供しようとシンポジウムや交流会を開いてきました。

With regard to financing, we set up a support frame work for female entrepreneurs in the Fund Scheme to Promote Starting-up Venture Companies. Since FY2013, the City of Yokohama has provided funding to commercialize promising business plans with a subsidy rate of two-thirds, up to two million yen.

In addition, Japanese working women face the problem in that there are few models or ways to get advice. Accordingly, we introduced a mentor system. We also have organized the symposiums and networking events to offer a place to create networks aiming at developing abilities and skills and cultivating leadership in the participants.

今回のシンポジウムも、こうした女性起業家支援の積み重ねとネットワークがあったため、実現できました。

We were also able to realize this symposium owing to the accumulation of networks of such support for female entrepreneurs.



アフリカの2人の起業家のお話からもわかるように、「継続や忍耐が大事だ」ということを働く方々が自覚するとともに、行政としても事業が持続できるように、女性たちをこれからも支えていきます。

As the two entrepreneurs from Africa mentioned, working people should keep in mind that endurance and patience are important. We, as an administrative organ, also continue to help women to enable them to continue their business.

今回のこのフォーラムを機に「よし、起業してみよう」という方は、ぜひ、市に問い合わせてください。

If, after attending this forum, you have decided to start up your own business, please contact the City of Yokohama.



田中)

それではシンポジウムの最後になりますが  
国際社会や日本に向けてのご提案やメッセージをお願いします。

Tanaka: Before closing this symposium, I would like to ask each panelist to give some suggestions or messages to the international society and also to Japan.

ミツラル)

世界、日本へのメッセージは3つあります。

第1に、大切にしたいのは「エコロジカル」ということです。

エチオピアやアフリカの人々が全員、車や冷蔵庫を持ったら、地球は長続きしません。

私が、環境に優しい会社を創業したのは、世界を持続させたいからです。

エチオピア人もアフリカ人も日本人も、環境を大切にしたいという思いは持っています。



Mitslul: I have three messages I would like to convey to the world and also to Japan. First, we need to value the concept of being ecological. If all Ethiopians and Africans had cars and refrigerators, the earth would not survive long. I founded an environmentally-friendly company because I want to sustain the world. In fact, both the Ethiopians and the Japanese share the idea that the environment should be cherished.

けれども、日本やドイツの企業がグリーンになるというのはとても難しい。だからこそ、エチオピアと協働し、グリーン経済を実現し、参加しましょう。

グリーン経済の実現は、地球の将来、世界の幸せにとって必要なことです。途上国のエチオピアも、将来は「環境に優しい国」として発展できるようにしなければなりません。

しかしながら、エチオピアの地方で、ただ単に「エコロジーを重視しましょう」といっても、相手にされません。

Nevertheless, it is not easy for Japanese or German companies to become green companies. Accordingly, I suggest that these companies work together with Ethiopia to realize a green economy and participate in it. Such an economy is needed for the Earth's future and for world happiness. Ethiopia should also aim to develop into an environmentally-friendly country. But just saying in rural Ethiopia that "we should respect ecology" will not gain us any notice.

それぞれの地域の生活や農業の方法の中に価値を見出すことが重要です。だからといって、今のまま貧しいままであれ、ということではありません。もちろん、教育やインフラ整備にアクセスする機会には必要ですが、持続可能でなければいけない。そこから価値を見出し、自分たちが持っているものを尊重する。

つまり、エチオピアの有機農家が、今、自分たちの持っている価値がどれほど重要なのかを認識することです。

My second message is to cherish each region and hometown. It does not mean that Ethiopia should remain a poor country. Instead, the country should offer access to education and develop infrastructure in a sustainable way. Ethiopians should find value there and respect what they have. For instance, this means that organic farmers in Ethiopia should recognize the importance of the values they have at the present.

しかし、それは外に対するドアが開かなければ、認識できません。ところが、移民というほど大掛かりなことではないにも関わらず外の世界を見に行こうとするとアメリカ、日本、ヨーロッパ各国の大使館ではビザの発行が断られてしまいます。したがってもし実際に海外に行くのが難しいのであれば「開発の博物館」のような施設や機会をエチオピアでつくってください。そういった手段を提供してください。どうクリーンにしたら、構造化したらいいか。

But such recognition cannot be made if the door to the outside is not open. And yet, despite the fact that they do not fit into the overall category of immigrants, when they try to see the world outside, they are refused visas at American, Japanese and European embassies. Accordingly, if it is difficult to go overseas, please build in Ethiopia facilities like a “museum of development” and create opportunities there. Please provide the means to do so. How can we do this in a clean way, how can we structure this?

そこでみれば、エチオピア人もわかるでしょう。

「今世界でトレンドは、オーガニックである」とわかれば、説得力があるでしょう。

Nobody can understand what he or she does not know, does not see and cannot see. The museum will give Ethiopians an insight into the direction they should head. If they learn at the museum that organic is a global trend, it would be persuasive enough to move them toward that direction.

東京で、横浜で日本で起業したい女性、私のところにきてください。

I am eager to support entrepreneur-minded women in Tokyo, Yokohama or any other cities in Japan. So, please contact me if any of you are interested in business start-ups.

ヨーマン)

アフリカ開発銀行と、日本は良い協力関係にあり、相互に重要なパートナーです。

Yoman: The African Development Bank maintains a good cooperative relationship with Japan, and we are mutually important partners.

私たちとしては、民間企業同士（Business to Business）のコラボレーションを促進していきたい。女性起業家同士のコラボですね。次の TICAD までに、アフリカでこのようなイベントを開催できたらと思っています。

We desire to promote collaboration between private companies (Business to Business). More concretely, collaboration among female entrepreneurs. We are eager to organize some events with such a theme before the next TICAD.

日本からは、絶えず学ぶことがあります。ですから、今度はアフリカ大陸でイベントを行い、関係を継続していきたいのです。

We always learn something from Japan. Therefore, we hope to host the events in Africa next time in order to keep our relationship.

また、アフリカ大陸で日本が評価されるのは、日本にとってもプラスだと思います。日本の貢献度の高さに比べ、現状のアフリカでの日本の存在感には、ギャップがあります。

In addition, it would be preferable also for Japan to gain a fair evaluation in Africa. In fact, Japan's current presence in Africa is not commensurate with its high degree of contribution.

アフリカの人々の多くが「ニッサン・トヨタ」を知っており、存在感を高める基盤はあります。日本は伝統ある文化と新しいトレンドを見事に融合した国です。私たちは、日本の例に学び、アフリカ人の生活をよくしていきたいと考えています。

Many Africans know “Nissan” or “Toyota”, and thus, Japan has already established the foundation to enhance its presence. Japan is a country that has integrated traditional cultures and new trends extremely well. We would like to learn from the Japanese cases to improve the lives of African people.

日本がリーダーシップを発揮し、アフリカ大陸で第1の存在感ある国になってほしいと願っています。

We sincerely hope that Japan will fulfill its leadership potential and show greatest presence in Africa.

オディレ)

私は、アーティストとしてメッセージをお伝えします。というのも、アーティストとして存在している時、私は力に満ちている感覚があるからです。

Ms. Odile: I would like to extend my message as an artist because I feel filled with energy when I work as an artist.

アーティストは「無から創りだす」人間です。何もないステージ、あるいは何も描かれていない紙から何かをつくり出します。私は、みなさんにクリエイティブになってほしいと思っています。そうすれば、問題が生じても解決策が生み出せます。

Artists are the people who “create something out of nothing.” Artists create something out of scratch stage or paper. I want all of you to be more creative so that you can develop a solution when problems occur.

ルワンダでは、困難な問題の解決策をクリエイティブに考えてきました。例えば、私たち女性がドラム・スティックを握っても、役に立つとは思っていませんでした。

けれども、中年の女性が生きていく道が、ドラム・スティックで切り開けるのであれば、その技術を教えるようにということになったのです。

In Rwanda, we have solved difficult problems in a creative way. For instance, nobody thought that women playing the drum could do anything useful. Despite that, we decided to teach how to play the drum to middle-aged women because we thought that drum sticks could be used to create their lives.

建物も道路も、開発は「人間の暮らしの質の向上」のためにあります。私たちはいつも、モノにとらわれてしまいます。もちろんモノも大切ですが、私たちが社会を改善していく時、人間性が大切だと思っています。ルワンダは、ヒューマニティ、人間性を非常に大切にしている国なのです。

Development of buildings, roads, or whatever is carried out in order to “enhance people’s quality of life.” We almost always tend to be preoccupied with materialism. It is true that goods are important, but we believe that human nature is critical in improving society. Rwanda is a country that deeply values humanity and human nature.

田中)

それでは、本日のご感想と、会議の成果を具体的にどのように生かしていくのかを市長におうかがいします。横浜市と JICA は 2011 年に包括的連携協定締結し、日ごろから協力関係を築いています。例えば今後、アフリカ女性起業家との連携を深めたり、現地の起業支援機関をサポートするのも一案と考えますがいかがでしょうか。

Tanaka: Now, I would like to ask some questions to the mayor, Ms. Hayashi. What do you think of the discussion today so far and how are you going to concretely utilize the results of this conference? The City of Yokohama concluded a comprehensive partnership agreement in 2011 and maintains a cooperative relationship with JICA. For instance, it may be possible to deepen collaboration with female entrepreneurs in Africa or to offer assistance to the local organizations that support business start-ups. What do you think of this?

林市長)

3 人のパネリストのみなさま、ありがとうございます。今、ヨーマンさんから「もっとアフリカで日本のプレゼンス強化を」と言っていただきました。アフリカ開発会議は日本政府が継続して実施していますが「さらに関係を深めていきましょう」という思いの表明と受け止めております。

Hayashi: I would like to express my gratitude to the three panelists here. We have just heard from Ms. Yoman that Japan needs to further enhance its presence in Africa. The Japanese government will certainly continue to host future TICAD, and thus, I understand that Ms. Yoman intended to express her view that we need to work together to deepen mutual relationship.

市長としてできることは

これまで横浜市は、全国の基礎自治体で初めて JICA と包括的連携協定を結びました。

横浜には、154 年の都市の歴史の中で、困難を解決するために築いてきた都市基盤整備の技術があります。また「よこはま動物園ズーラシア」に、サバンナゾーンが開設されました。上下水道や港湾などの技術者を派遣したり、野生動物について情報交換をしたり、アフリカとのつながりがありますが、特にビジネスにつなげていく部分を JICA にお願いしています。今後は JICA の力も借りて、アフリカと横浜の女性起業家のネットワークをつくっていきたいと考えています。

Regarding what I can do as the mayor, the City of Yokohama was the first municipality that concluded a comprehensive partnership agreement with JICA. In addition, Yokohama has the technologies to improve urban infrastructure, which have been developed to overcome the difficulties in the city's 154 years of history. The African Savanna zone also opened in Yokohama Zoorasia. Furthermore, Yokohama dispatches engineers specializing, for instance, in water and sewage systems and harbor engineering to Africa. The city also exchanges information on wild animals with Africa. In this way, Yokohama maintains relationship with Africa. In the meantime, Yokohama asks JICA to develop relationship particularly to promote business between Africa and Japan. We hope to create a network of female entrepreneurs both in Africa and Japan in cooperation with JICA.

アフリカは横浜にとって「ともに成長するパートナー」という位置づけです。

このフォーラムの成果は、今回のアフリカ開発会議で初めて設けられた「ジェンダー平等と女性のエンパワメントを通じたアフリカ開発の推進」というテーマ別会合で、私が発表します。

アフリカと横浜の女性たちの交流を世界に発信し、女性が心豊かに活躍できる社会づくりに役立つことを願っています。

For the City of Yokohama, Africa is a “partner with whom to grow together.” I will make a summary paper on the major outcome of this forum and report to the “Thematic Session on Driving African Development through Gender Equality and Women’s Empowerment” in TICAD V. I sincerely hope that this symposium will help to develop a society where women can fulfill their leadership and obtain personal enrichment through communicating our exchange among women in Africa and Japan to the world.

田中)

本日は大変有意義なお話をたくさん伺うことができました。本日の議論を通じてアフリカでも日本でも女性が抱えている問題には共通点が多いことも分かりました。女性が経済的に力をつけ、自信と夢を持って行動し、地域の活性化という社会の発展に参画していくためには、まだまだ乗り越えなければならない多くの課題があります。けれども、どうすれば課題を乗り越えてより良い社会を作っていくことができるのか、というカギを今日はパネリストの皆さんの素晴らしい行動力や経験から教えていただいたと思います。女性の力こそがアフリカ、日本そして輝く未来のための鍵だと思います。そしてもちろん男性も若者も子どもも高齢者も一緒に考え世界中で行動を起こしていかなければなりません。身近なところ、できることから考えてTICADの会合に持って行っていただきたいと思います。会場の皆様、本日はご参加ありがとうございました。もう一度、パネリストの皆さんに拍手をお願いいたします。また同時通訳の方や、本日のために半年以上も前から準備を進めてくださったすべての方々にも拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

Tanaka: Today we have heard much significant and meaningful discussion. I learned that there are many points of similarity in the issues facing women in Japan and Africa. There are still so many problems we must overcome to give economic power to women, allow them to act with confidence and vision and participate in the development of society in terms of regional invigoration. I believe the powerful capacity for action and experiences of the panelists we have today have given us the key to teach us how to overcome these problems and create a better society. I believe the power of women themselves is the key for Japan and Africa, and for a brilliant future. Of course we have to think together with men, with youth and with children and the elderly to act together globally. We should think about what we can do in our own circumstances and bring those ideas to TICAD. Thank you to everyone who participated today. Please, let us have another round of applause for our panelists. And also applause for the simultaneous interpreters and the people who have been working from more than half a year ago to prepare this event. Thank you.





# テーマ別会合市長ステートメント

## TICAD V Official Side Event Symposium “Women’s Leadership and Economic Growth” Summary Paper

### 1. アフリカの女性たちが直面している状況

#### 1. Challenges for women in Africa

アフリカは、今まさに急速に経済発展をとげており、世界中が注目しています。

経済の発展には、男女がともに強みを発揮し、社会で活躍する環境を整えることが重要です。

しかしながら、女性が家の外に出て働くこと、高等教育を受けること、財産を所有することが難しいなどの課題があります。いくつかの国では、それらの権利が認められていますが、家事は女性が行うという固定概念や女性に対する差別は未だ根強く残っているということ、また、多くの女性にとって、起業に適した融資、資本や市場へのアクセスに対する障壁が存在しているということを共有いたしました。

*Africa is now achieving economic prosperity and the rest of the world is paying closer attention to its progress and success. I believe that building an environment where both men and women can make the most of their ability and socially flourish is essential for economic development. However, it is still difficult for women, in some societies, to work outside of the home, to seek higher education, and to possess assets and properties. African women are still facing various challenges to overcome, such as the stereotyped roles of women and biases regarding women only suited for domestic works, which are prevailing in many societies in Africa. Furthermore, we recognize that there exist barriers between many African women and access to capital, market and proper financing for starting their business.*

### 2. アフリカの女性たちにとって必要な支援

#### 2. Necessary actions

アフリカの女性にとって、アフリカ社会全体の意識の改革、各国における女性の社会参画を推進するための法整備や政策形成が重要です。

それと同時に、女性が安全に安心して暮らせる環境づくりを進め、女性の潜在的で多様な能力の形成・発揮を支援し、女性のエンパワーメントを進めるためには、アフリカへの理解を深め、日本と、そして世界とのつながりを、さらに深める必要があることを共有しました。

*It is important to improve the awareness of women’s issues in the whole African society, and to develop and effectively implement laws, policies and programs which would further promote social participation of women. At the same time, we recognize the need to support for building women’s potential and diverse capacity, and the creation of an environment where women and their families can live safely and with peace. We also share that it is necessary to deepen our understanding regarding the whole of Africa and to deepen our robust relationship for promoting economic empowerment of women in Africa.*

### 3. 国際社会がすべきこと

#### 3. Cooperation with global societies

女性の社会進出を阻む課題は、教育、保健・衛生といった生活面から、所得格差の面や意思決定のステージに立てない、紛争による家族の分断といった政治・経済面まで、ありとあらゆる分野にわたっており、これらの課題の解決に向けて、横断的かつ高い優先順位をつけて取り組むべきです。

アフリカの女性は長く可能性や夢から遠ざけられてきました。しかし、今、彼女たちは生活に根ざした、豊かな感性や共感力、文化と産業を融合させる力で、アフリカの経済を動かし始めています。

女性の起業を支援していくことは、アフリカの経済社会開発における重要な鍵の一つとなると信じています。

アフリカの女性の社会進出に関し、アフリカ各国及び国際社会による積極的なコミットメントを促進するため、この第5回アフリカ開発会議で採択される宣言及び行動計画において、起業支援をはじめ、女性のエンパワーメントを一つの重要なテーマとして取り上げる必要があります。

横浜市は JICA と協力し、「アフリカの開発と発展には女性が大きく貢献する」という確信のもと、第5回アフリカ開発会議を契機に、アフリカの女性起業家を対象とした能力開発に取り組みます。

アフリカと横浜の女性をつなぐネットワークづくりを進め、女性のエンパワーメントの実現に向けて、共に歩んでいきたいと思います。

*Issues related to the social advancement of women should be discussed as priority concerns in a wide range of fields, from education, health, income and family to policy-making. African women have been kept away from their possibilities and dreams. However, now, they are starting to vitalize the African economy by their life-based rich sensibilities and sympathetic faculties. Also their power to combine the culture and the industry should not be overlooked. I believe that supporting women's entrepreneur is one of the crucial keys for economic and social development in Africa.*

*Concerning the Yokohama Declaration and the Yokohama Action Plan to be adopted by TICAD V, it is necessary for African countries and the global societies to emphasize and incorporate women's economic empowerment as one of the key and primary development agenda for our global future.*

*With TICAD V as our momentum, together with JICA, the City of Yokohama aims to support capacity building through exchange and training programs for African women entrepreneurs, based on my strong confidence that women must contribute to African development. It is our hope that together our efforts can lead women's empowerment, making networks of the women of Africa and Yokohama.*

June 2, 2013  
Fumiko Hayashi  
Mayor of Yokohama

## 第5回アフリカ開発会議公式サイドイベントシンポジウム 「女性の活躍と経済成長」 アンケート結果

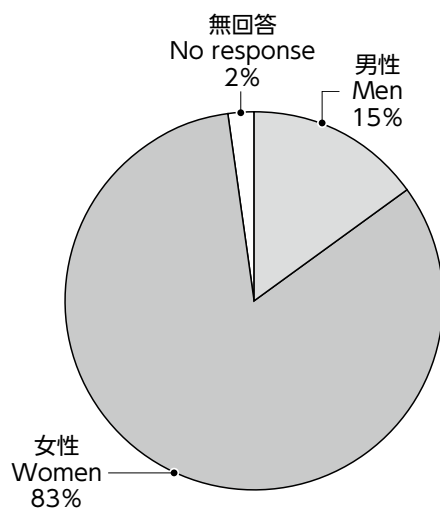
Event Affiliated with the 5th Tokyo International Conference on African Development (TICAD V)  
Women's Leadership and Economic Growth Symposium Questionnaire Results

### 1. 来場者内訳

#### 1. Breakdown Of Visitors

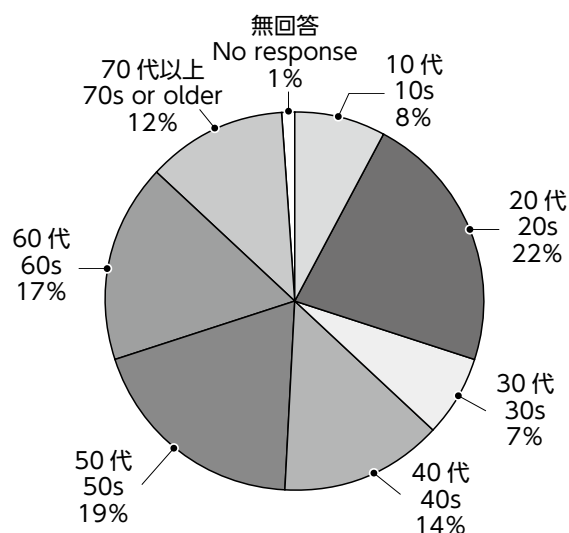
##### (1) 性別

##### (1) Gender



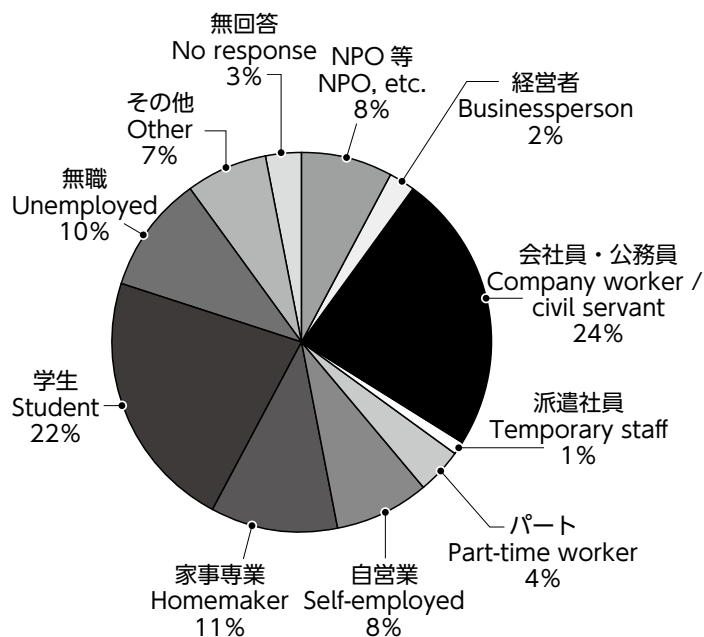
##### (2) 年代

##### (2) Age



##### (3) 職業

##### (3) Occupation



#### 【来場者の特徴】

#### [Special Features of Visitors]

女性の割合が8割を超えているが、男性の来場も15%程度あった。年代については、男女ともに大きな偏りはなかった。

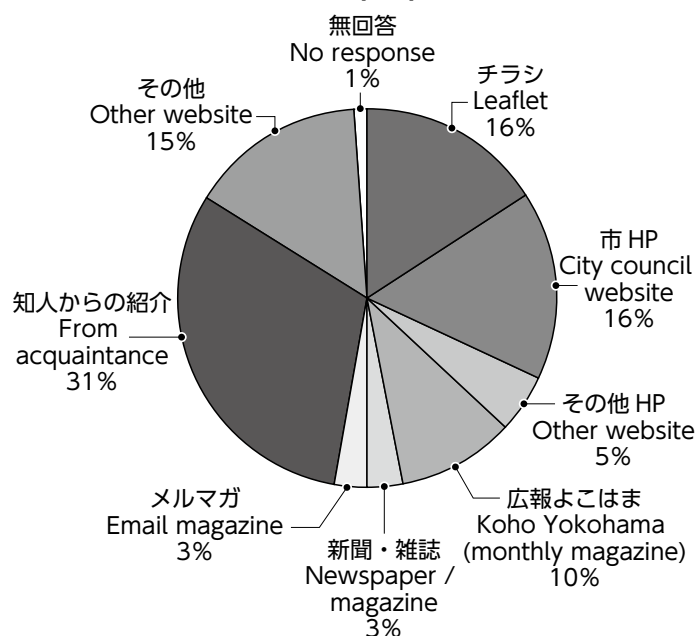
今回のシンポジウムは、平日の午後に開催されたが、本市職員の参加を踏まえても、仕事を持っている人の参加も多かった。無職の方の中には、起業を考えている人もいた。

Although women made up over 80% of the visitors, men made up around 15%. There was no major variation between men in women in terms of age.

The symposium was held on a weekday afternoon but, even taking into account the attendance of city council staff, was well attended by those with jobs. Among the unemployed people attending were those who were considering starting their own businesses.

## 2. シンポジウムを何で知ったか

## 2. How People Found Out About The Symposium



### 【情報の入手経路】

#### [Information Routes]

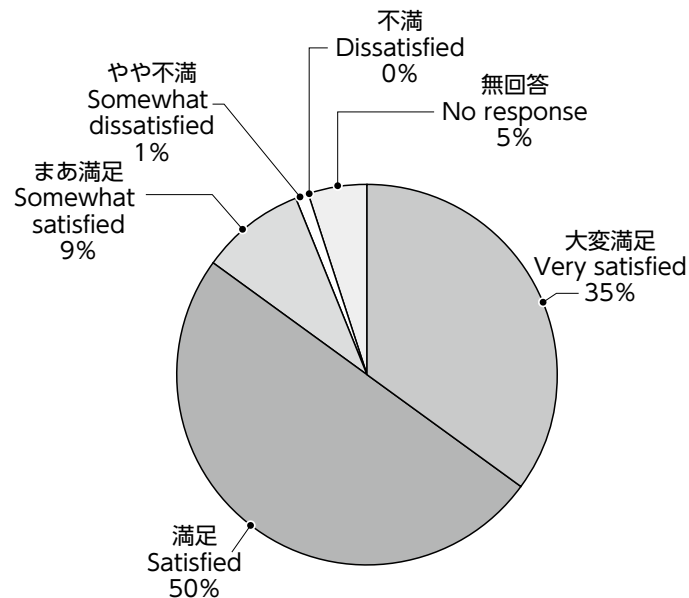
チラシを直接、手に取った人や市 HP、広報よこはまで知った人のほかに、知人からの紹介が圧倒的に多数となっている。

一方で、新聞で開催を知った人は少数にとどまっている。

The vast majority of people found out by being directly handed leaflets, seeing the city council's website, from the Koho Yokohama magazine or from a friend or acquaintance.

People who learned of it through the newspaper were in the minority.

### 3. シンポジウムの満足度 3. Satisfaction With The Symposium



#### 【満足度】

##### [Level of Satisfaction]

「大変満足」及び「満足」が約9割に上っている。満足した理由として、多かったのは、

- ・ アフリカの女性の声が生で聞けた
- ・ 前向きな姿勢にパワーをもらった
- ・ DVD やパワポなどがわかりやすかった

不満の要素としては

- ・ 金属探知機の通過に時間がかかった
  - ・ シンポが始まって、会場が騒々しかった
- など、運営面での指摘が多かった。

Approximately 90% were “Highly satisfied” or “Satisfied.” Primary reasons given for being satisfied were:

- Able to actually see and hear African women speaking
- Being empowered by their positive stance
- Easy to understand presentations using DVDs and PowerPoint, etc.

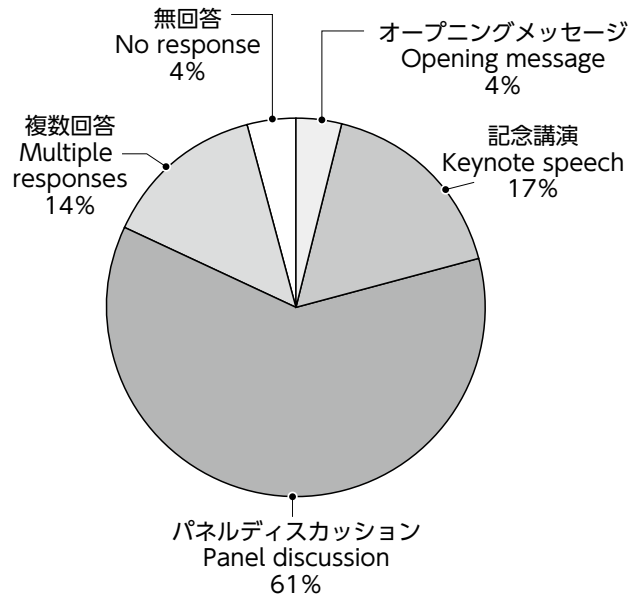
Points of dissatisfaction:

- Took a long time to get through the metal detectors
- A lot of noise in the venue even though the symposium had started

Other points similarly showed dissatisfaction with how the event was run.

## 4. 印象に残ったプログラム

### 4. Program Items That Made A Major Impression



#### 【印象に残ったプログラム】

##### [Program Items that Made a Major Impression]

6割の来場者がパネルディスカッションをあげており、アフリカの女性が力強く、前向きに頑張っている姿が印象的だったとしている。

また、バンダ大統領の記念講演についても、アフリカで二人目の女性元首のメッセージを直接聞く、貴重な機会としてとらえている人が多かった。

60% of visitors mentioned the panel discussion, stating the impression of African women being strong and proactive.

Many people also said what a precious opportunity it was to hear directly the message of Africa's second women president through President Banda's keynote speech.

## 5. コメント

### 5. Comments

- ・ 現場で活躍している女性のお話を聞くことができ、たくさん刺激を受けました。
  - ・ 映像などを使い、現場の活動が大変分かりやすかった。パネラーの方々の熱意が非常に伝わってきて、この時間だけでなく、今後も私の中に残るものとなりました。
  - ・ 素晴らしいシンポジウムに出席させていただきありがとうございました。アフリカの女性も私たちも共有の世界で生きていることを感じました。
  - ・ ジェンダー、DV に苦しむ女性がいる間、教育を受けられない子どもがいる間、貧困がなくなる間、私は休むことはない！というバンダ大統領の言葉に胸が熱くなった。
  - ・ 日本の学生に聞いてほしいです。
  - ・ 女性の強みや女性だからできることを積極的に取り組み、活躍している姿にすごく感動しましたし、自分も積極的に動いていこうと思うきっかけになりました。
- “It was highly stimulating to hear directly from women active in the front lines of these efforts.”
  - “Using videos and pictures made it much easier to understand what is actually going on there.” - “I could really feel the passion of the panelists, their impression will stay with me for a long time.”
  - “I appreciate very much having been able to attend this wonderful symposium. I realized that both we [Japanese women] and African women are living in the same world.”
  - “I was forcefully struck by President Banda stating that she would not rest while women suffered from domestic violence, children could not receive education and while poverty still existed.”
  - “I would like students in Japan to listen to this.”
  - “I was very moved by the strength of the women and their positive attitudes towards undertaking things women can do, it made me want to actually take action myself too.”





Hosts:

City of Yokohama  
Ministry of Foreign Affairs of Japan  
Ministry of Economy, Trade and Industry  
Japan International Cooperation Agency (JICA)

Supported by: Cabinet Office

In cooperation with: Japan National Committee for UN Women

この報告書は、FSC® 森林認証紙に印刷し、印刷用の紙へリサイクルできます。また、読みやすさに配慮したフォントを使用しています。

リサイクル適性 (A)  
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。

